

令和4年度

中学生チャレンジテスト
(第1・2学年)
結果について

柏原市教育委員会

1. 調査目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (3) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (4) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (5) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2. 調査概要

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査日 | 令和5年1月11日(水) |
| (2) 対象学年 | 中学校第1・2学年全生徒 |
| (3) 調査内容 | 第1学年 : 国語・数学・英語・アンケート調査
第2学年 : 国語・社会・数学・理科・英語・アンケート調査
※第1学年アンケート調査はオンライン方式で実施。 |

※調査問題・結果資料は、大阪府ホームページ内に掲載されています。

調査問題(R4):

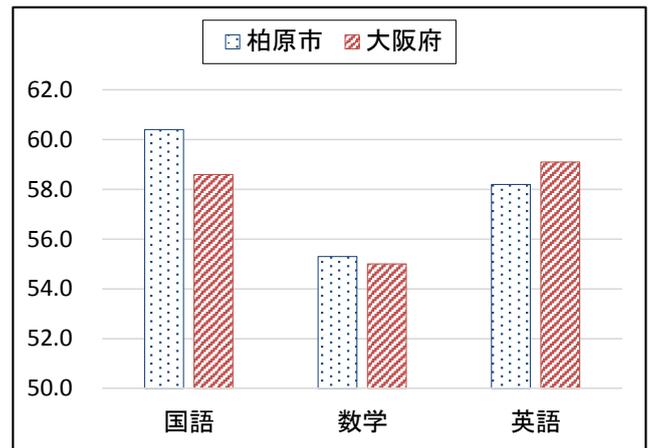
https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/challenge_04_mondai.html

結果資料(R4):

<https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/r04challenge-kekka.html>

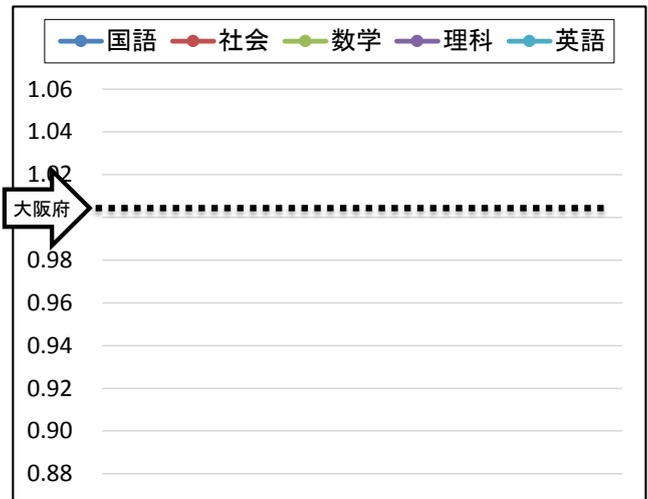
① 各教科の平均点

	柏原市	大阪府	差(市-府)
国語	60.4	58.6	1.8
社会			
数学	55.3	55.0	0.3
理科			
英語	58.2	59.1	▲ 0.9



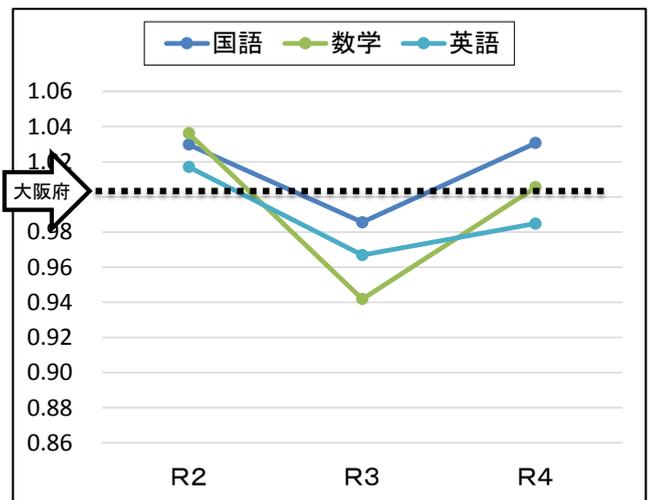
② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

国語			
社会			
数学			
理科			
英語			



③ 前年度までの1年生との比較(対大阪府比)

	R2	R3	R4
国語	1.03	0.99	1.03
社会			
数学	1.04	0.94	1.01
理科			
英語	1.02	0.97	0.98



① 各教科の平均点

○国語科・数学科では、府の平均点を上回った。特に国語科では、1.8点上回った。
▼英語科では、府の平均点0.9点下回った。

② 同一集団の経年変化(対大阪府比) ※1年生のため分析なし

③ 前年度までの1年生との比較(対大阪府比)

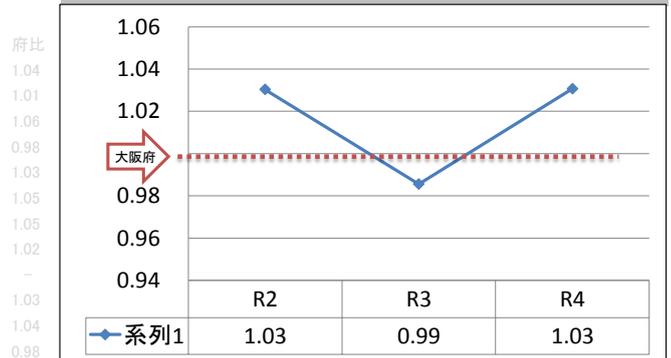
○すべての教科で、対府比における数値が昨年度の1年生より上昇している。

	平均点
柏原市	60.4
大阪府	58.6

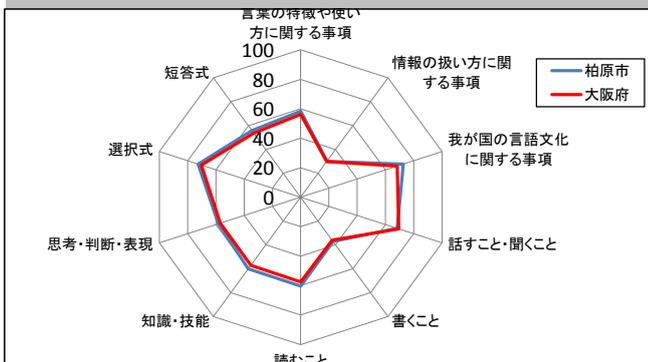
※得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	58.4	56.2
		情報の扱い方に関する事項	30.1	29.8
	思考力・判断力・表現力等	我が国の言語文化に関する事項	72.7	68.3
		話すこと・聞くこと	68.3	69.4
		書くこと	37.2	36.0
評価の観点	読むこと	60.3	57.6	
	知識・技能	18	60.0	57.2
	思考・判断・表現	18	58.2	56.8
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
	選択式	14	72.6	70.3
	短答式	13	55.8	53.6
	記述式	3	35.1	36.0

◆前年度までの1年生との比較(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

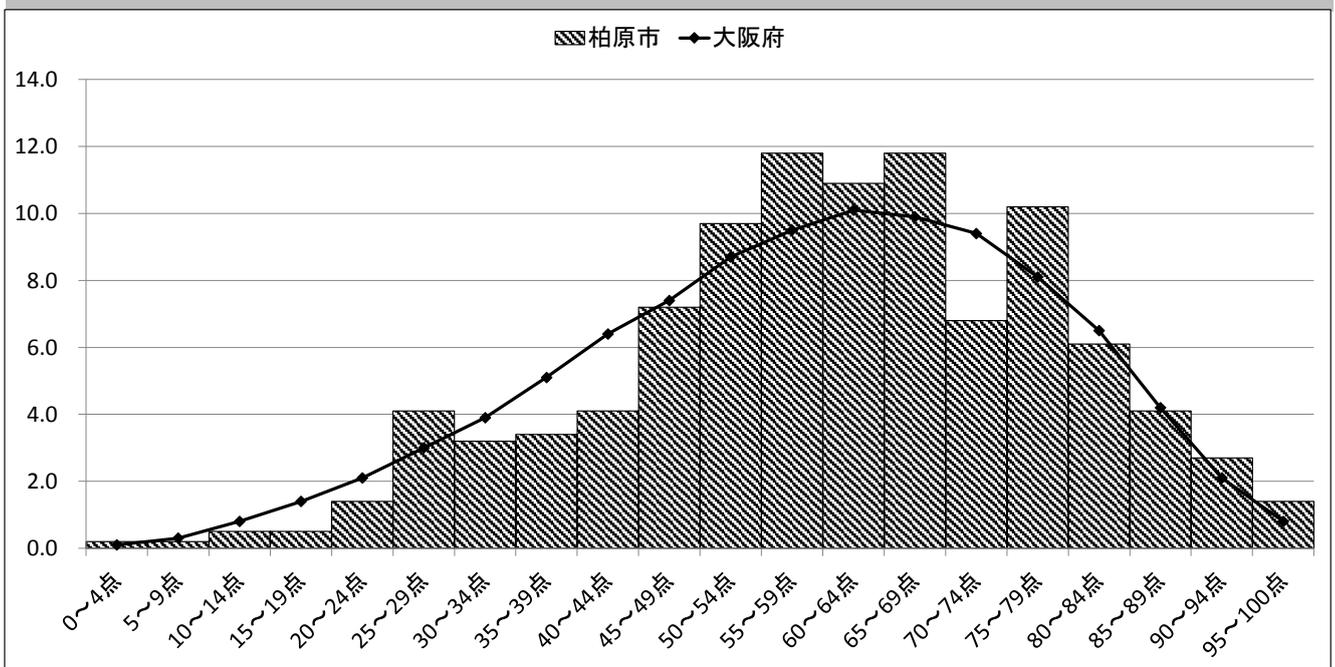


◆特徴的な傾向

- 全体の平均点は、1.8点府を上回っている。
 - 多くの区分において得点率が府を上回っている。特に、「我が国の言語文化に関する事項」の領域で4.4ポイント府を上回っている。
 - 対大阪府比において、昨年度の1年生より結果が向上している。
 - 得点別分布では、40点未満の割合が府より小さい。
- ▼「話すこと・聞くこと」の領域、「記述式」の問題において、得点率が大阪府を下回っている。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	五	1	
問題の概要	現代かなづかいに直して書く(日はく)		
出題の趣旨	文語のきまりに従って書いている		
領域	我が国の言語文化に関する事項	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	78.7	10.0
大阪府	69.8	13.4

問題の文章については、著作権者への配慮から掲載を控えています。

問題 本文中の「日はく」を現代かなづかいに直して、すべてひらがなでかきなさい。 正答

・府と比較して正答率が高かった問題である。
・無解答率も府より低い。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	一	3	②
問題の概要	漢字を書く(ハナツ)		
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく書いている		
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	45.0	37.1
大阪府	48.8	34.7

問題 次のカタカナを文の内容に合うように漢字に直し、楷書でいねいにかきなさい。
① 小鳥を大空にハナツ。 正答

・府と比較して正答率が低かった問題である。
・無解答率も同様に府と比較して高い。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	一	3②	
問題の概要	漢字を書く(ケイカイ)		
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく書いている		
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	24.7	37.6
大阪府	24.8	43.3

問題 次のカタカナを文の内容に合うように漢字に直し、楷書でいねいにかきなさい。
② ケイカイな動きでおどる。 正答

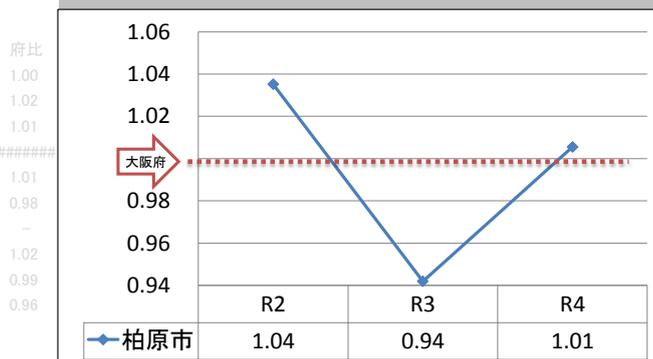
・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。

	平均点
柏原市	55.3
大阪府	55.0

*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)*	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	16	54.8	54.9
	図形	6	58.6	57.3
	関数	10	54.1	53.8
	データの活用	—	—	—
評価の観点	知識・技能	27	62.4	61.9
	思考・判断・表現	5	25.1	25.5
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	16	61.0	60.0
	短答式	14	56.2	56.6
	記述式	2	15.0	15.6

◆前年度までの1年生との比較(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

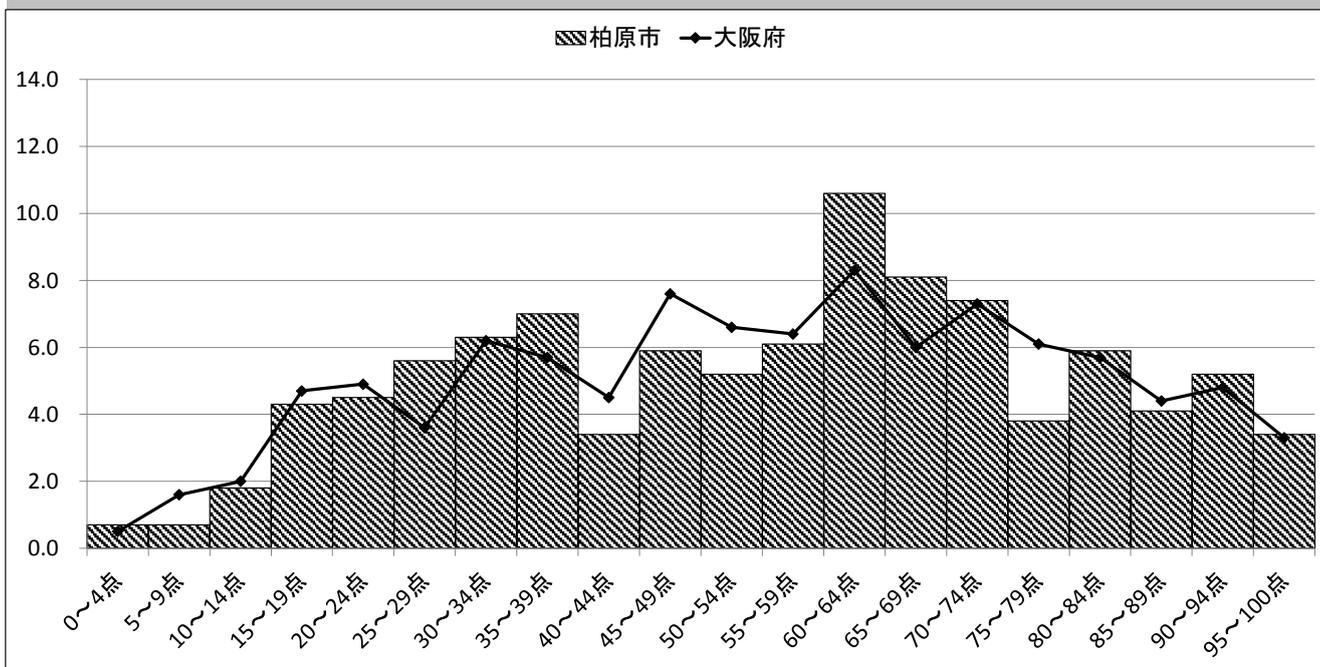


◆特徴的な傾向

- 全体の平均点は、0.3点府を上回っている。
- 「図形」の領域、「選択式」の問題で、得点率が1ポイント以上府を上回っている。
- 対大阪府比において、昨年度の1年生より結果が向上している。
- ▼「思考・判断・表現」の観点、短答式・記述式の問題において、得点率が大阪府を下回っている(ただし、1ポイント未満)。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合

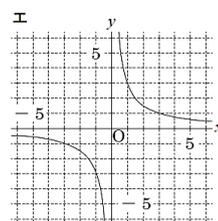
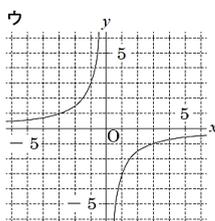
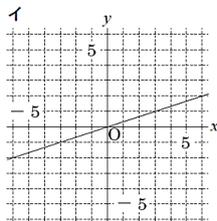
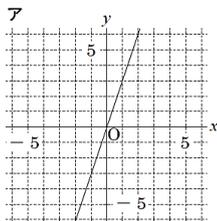


○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	4	(3)	
問題の概要	反比例 $y=3/x$ のグラフを選ぶ		
出題の趣旨	反比例のグラフの特徴を理解している		
領域	関数	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	78.8	0.5
大阪府	72.0	0.6

(3) 次のア～エの中に、反比例 $y = \frac{3}{x}$ のグラフがあります。それを1つ選びなさい。



正答例 エ

・府と比較して正答率が高かった問題である。
 ・誤答として最も多かったのが「ウ」であり、10.2%の生徒が選択している。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	1	(4)	
問題の概要	与えられた式に整数を入れて、最も大きくなる結果を求める		
出題の趣旨	複数の正の数と負の数の計算結果の数の大小について理解している		
領域	数と式	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	41.8	9.9
大阪府	47.6	9.8

(4) 次の式の中の「あ」と「い」と「う」それぞれに、 $-5, -3, -1, 2, 4$ の中からいずれか1つの整数を入れて計算します。ただし、「あ」と「い」と「う」に入れる整数はすべて異なります。計算の結果が最も大きい数になるとき、その計算の結果を求めなさい。

式 あ × い + う

正答例 19

・府と比較して正答率が低かった問題である。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	7	(2)	説明
問題の概要	文字を使った式をどのように導いたかを具体的に説明する		
出題の趣旨	具体的な事象において、数量の関係を捉え、文字式の意味を説明することができる		
領域	数と式	評価	思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	13.8	47.9
大阪府	14.7	43.8

問題省略

正答例

・1個の囲みの中の人数が $n-2$ で、その囲みが6個あるから $6(n-2)$ となり、それに正三角形の頂点に5人いるので5を加える。
 つまり、 $6(n-2)+5=6n-12+5=6n-7$
 よって $6n-7$ 人となる。
 ・1個の囲みの中の人数が $n-1$ で、その囲みが6個あるから $6(n-1)$ となるが、1人だけ2回数えているから1を引く。
 つまり、 $6(n-1)-1=6n-6-1=6n-7$
 よって $6n-7$ 人となる。

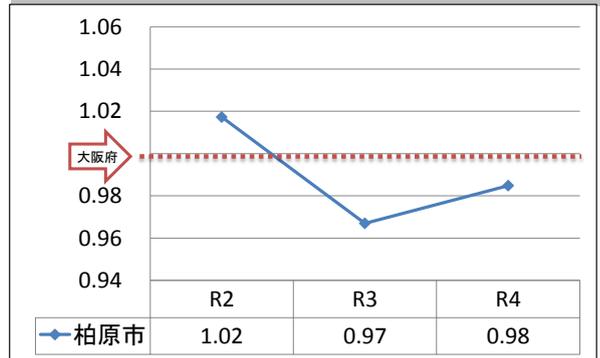
・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。

	平均点
柏原市	58.2
大阪府	59.1

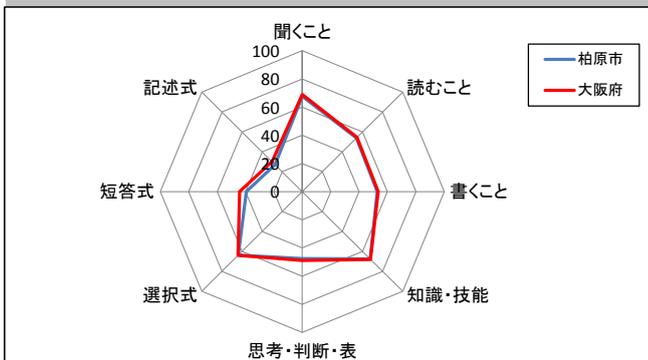
*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%) [*]	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	聞くこと	15	67.6	69.0
	読むこと	17	53.9	54.5
	話すこと〔やり取り〕	—	—	—
	話すこと〔発表〕	—	—	—
評価の観点	書くこと	7	52.9	53.4
	知識・技能	21	67.6	68.1
	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	18	47.6	48.9
問題形式	選択式	33	63.7	63.9
	短答式	3	39.5	44.1
	記述式	3	27.1	30.1

◆前年度までの1年生との比較(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

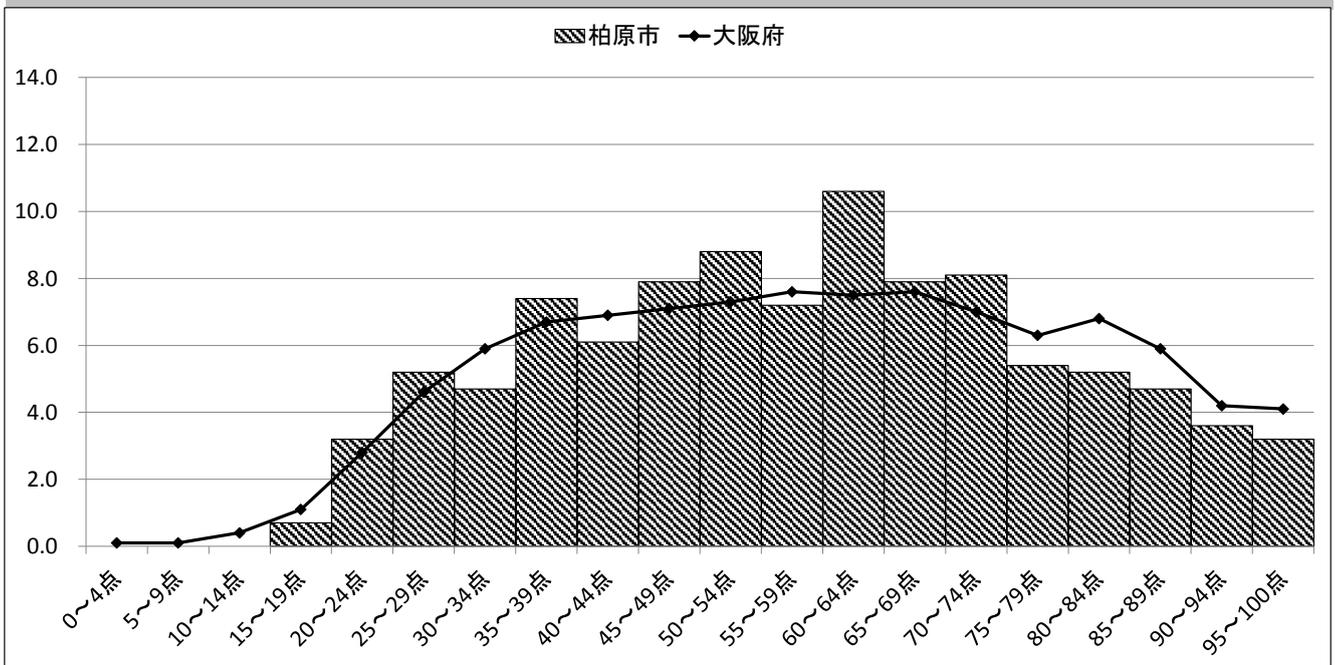


◆特徴的な傾向

- 対大阪府比において、昨年度の1年生より結果が向上している。
- 得点分布の割合では、20点未満の割合が府より少ない。
- ▼全体の平均点は、0.9点府を下回っている。
- ▼得点率がすべての領域、観点、問題形式で府を下回っている。特に、「短答式」の領域では4.6ポイント、「記述式」の問題では3.0ポイント府を下回っている。
- ▼得点分布の割合では、75点以上の割合が府より少ない。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	5	(4)	
問題の概要	会話文の空欄に入れる適切な語(代名詞one)を選ぶ		
出題の趣旨	語や文法事項等を理解して、正しい文を書くことができる		
領域	書くこと	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	68.8	0.2
大阪府	60.4	0.6

5 次の(1)~(5)はAとBの会話です。()に入れる英語として最も適しているものを、あとのア~エからそれぞれ1つずつ選びなさい。

(4) A: Do you have an orange pencil?

B: No, but I have a red (). 正答例 ウ

- ア it
- イ nice
- ウ one
- エ his

・府と比較して正答率が高かった問題である。
 ・誤答として最も多かったのが「ア」であり、14.9%の生徒が選択している。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	4	(2)	③
問題の概要	紹介カードを読み、会話を聞いて、紹介カードの空欄③に入れる適切な語を書く		
出題の趣旨	紹介カードの情報をもとに、日常会話に関する話題についてのまとまったやり取りを聞き、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握することができる		
領域	書くこと	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	53.0	27.5
大阪府	59.8	21.6

【リスニング問題】

4 ケンタは、カナダ (Canada) からの留学生のベス (Beth) をクラスで紹介するために、ベスにインタビューをして、クラスに掲示する【紹介カード】を作成しました。時間を30秒与えますので、【紹介カード】と【質問】を読みなさい。そのあと、ケンタがベスにインタビューをしたときの会話が放送されます。会話と【紹介カード】の内容を参考に、あとの【質問】に答えなさい。では【紹介カード】と【質問】を読みなさい。

正答例

② brothers ③ math

【紹介カード】

This is Beth.
 She is from Canada.
 She likes (①).
 She likes baseball.
 She has two (②).
 Her favorite subject is (③).



Beth

・府と比較して正答率が低かった問題である。
 ・無解答率も3番目に高かった問題である。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	9	(3)	
問題の概要	質問を読み、質問に対する答えの文となるように、質問の空欄②に入れる適切な2語の英語を書く		
出題の趣旨	日常会話に関する話題についてのまとまりのあるスピーチと、そのスピーチのあとに行われた質問を読み、内容の概要や要点を適切に把握することができる		
領域	書くこと	評価	思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	17.4	43.6
大阪府	22.0	40.4

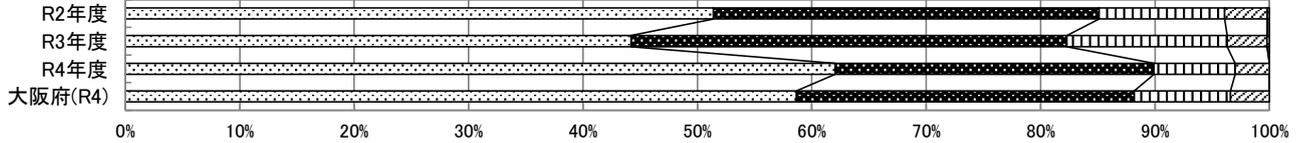
問題省略

正答例 I have (three or four students.)

・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
 ・府と比較して正答率も低い。

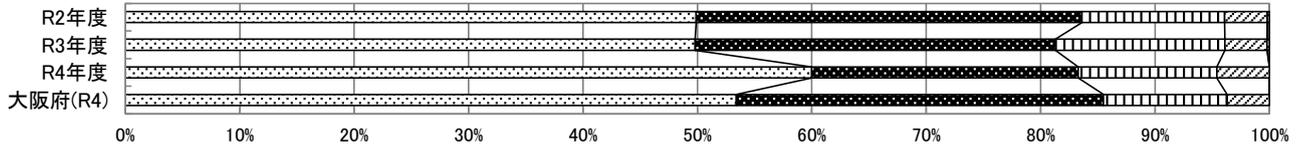
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	51.4	33.7	11.0	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
R3年度	44.2	38.1	14.0	3.5	-	-	-	-	0.0	0.2
R4年度	62.1	27.9	7.1	3.0	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	58.6	29.5	8.4	3.4	-	-	-	-	0.0	0.0

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



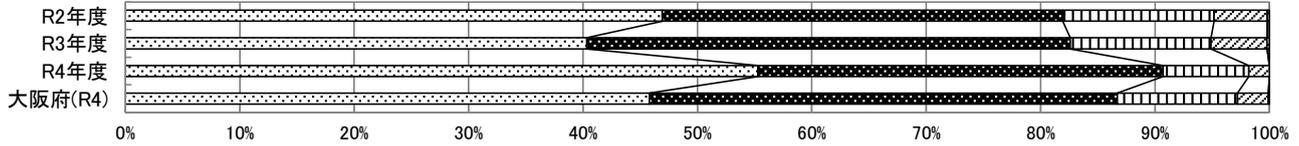
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	49.9	33.7	12.5	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
R3年度	49.8	31.5	14.8	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
R4年度	60.0	23.3	12.1	4.6	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	53.4	32.1	10.8	3.7	-	-	-	-	0.0	0.0

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



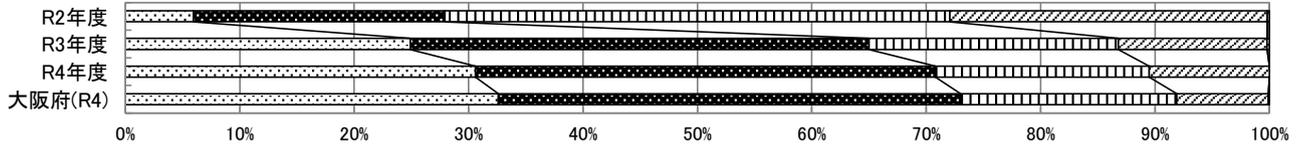
質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	46.9	35.0	13.2	4.7	-	-	-	-	0.0	0.2
R3年度	40.3	42.2	12.3	4.9	-	-	-	-	0.0	0.2
R4年度	55.3	35.4	7.5	1.8	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	45.8	40.9	10.5	2.7	-	-	-	-	0.0	0.1

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	6.0	22.0	44.1	27.7	-	-	-	-	0.0	0.2
R3年度	24.9	40.1	21.8	13.0	-	-	-	-	0.0	0.2
R4年度	30.6	40.2	18.7	10.5	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	32.6	40.4	18.9	8.0	-	-	-	-	0.0	0.1

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答

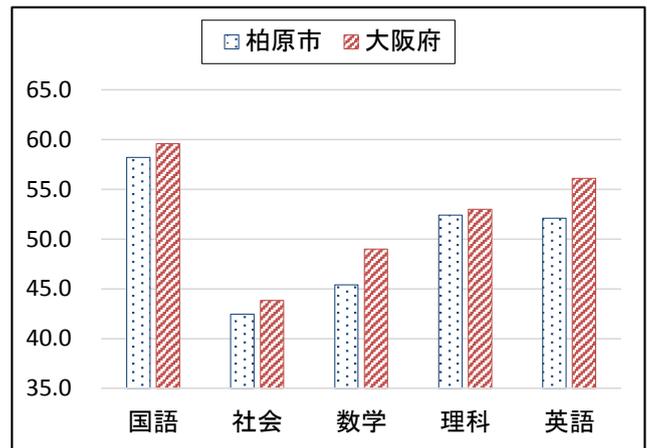


【問1～4】
 ○前年度の1年生と比較すると、肯定的回答の割合が増加している。
 ○今年度の大阪府との比較においても、肯定的回答の割合は概ね同等であるが、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動については課題が見られる。

① 各教科の平均点

	柏原市	大阪府	差(市-府)
国語	58.2	59.6	▲ 1.4
社会	<u>42.5</u>	<u>43.9</u>	▲ 1.4
数学	45.4	49.0	▲ 3.6
理科	<u>52.4</u>	<u>53.0</u>	▲ 0.6
英語	52.1	56.1	▲ 4.0

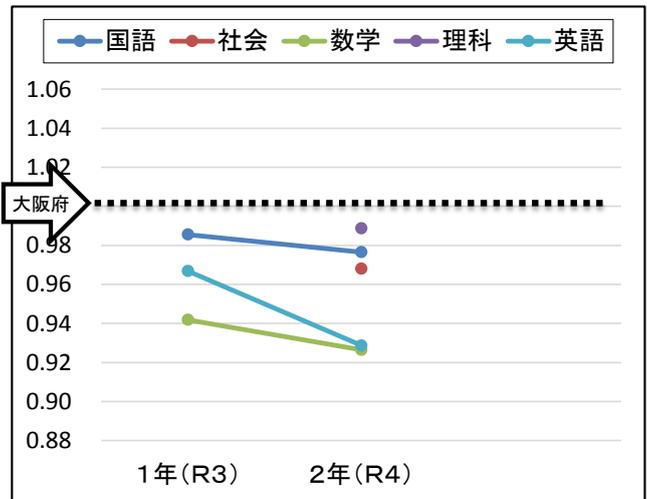
※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。



② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

	1年(R3)	2年(R4)
国語	0.99	0.98
社会		<u>0.97</u>
数学	0.94	0.93
理科		<u>0.99</u>
英語	0.97	0.93

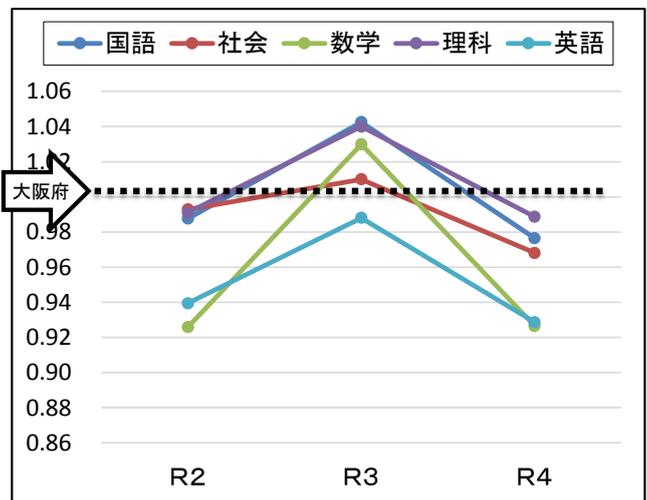
※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。



③ 前年度までの2年生との比較(対大阪府比)

	R2	R3	R4
国語	0.99	1.04	0.98
社会	<u>0.99</u>	<u>1.01</u>	<u>0.97</u>
数学	0.93	1.03	0.93
理科	0.99	<u>1.04</u>	<u>0.99</u>
英語	0.94	0.99	0.93

※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。



① 各教科の平均点

▼全教科で、府の平均点を下回った。特に、数学科では3.6点、英語科では4.0点下回った。

② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

▼全教科で、1年次よりも対府比における数値が下降している。特に英語科では、0.97から0.93と大きく下降している。

③ 前年度までの2年生との比較(対大阪府比)

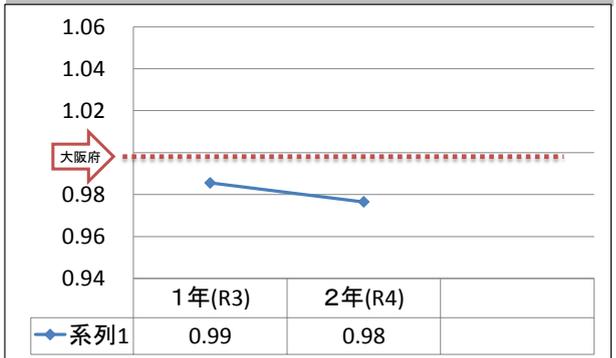
○すべての教科で、対府比における数値が昨年度の2年生より下降している。

	平均点
柏原市	58.2
大阪府	59.6

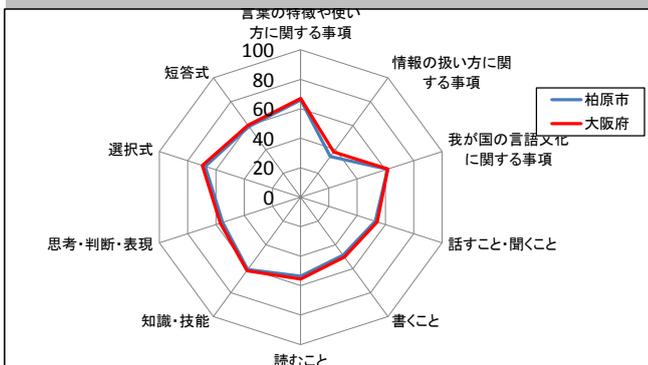
※得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※		府比	
			柏原市	大阪府		
学習指導要領の領域等	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	9	65.9	67.0	0.98
		情報の扱い方に関する事項	1	34.0	37.8	0.90
	思考力・判断力・表現力等	我が国の言語文化に関する事項	7	61.4	61.7	1.00
		話すこと・聞くこと	6	52.8	54.2	0.97
		書くこと	5	48.5	50.1	0.97
評価の観点	読むこと	11	53.7	55.6	0.97	
	知識・技能	17	60.6	61.6	0.98	
	思考・判断・表現	20	55.3	56.9	0.97	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	—	
	選択式	11	67.7	69.7	0.97	
	短答式	17	59.4	60.4	0.98	
	記述式	3	33.3	34.5	0.97	

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

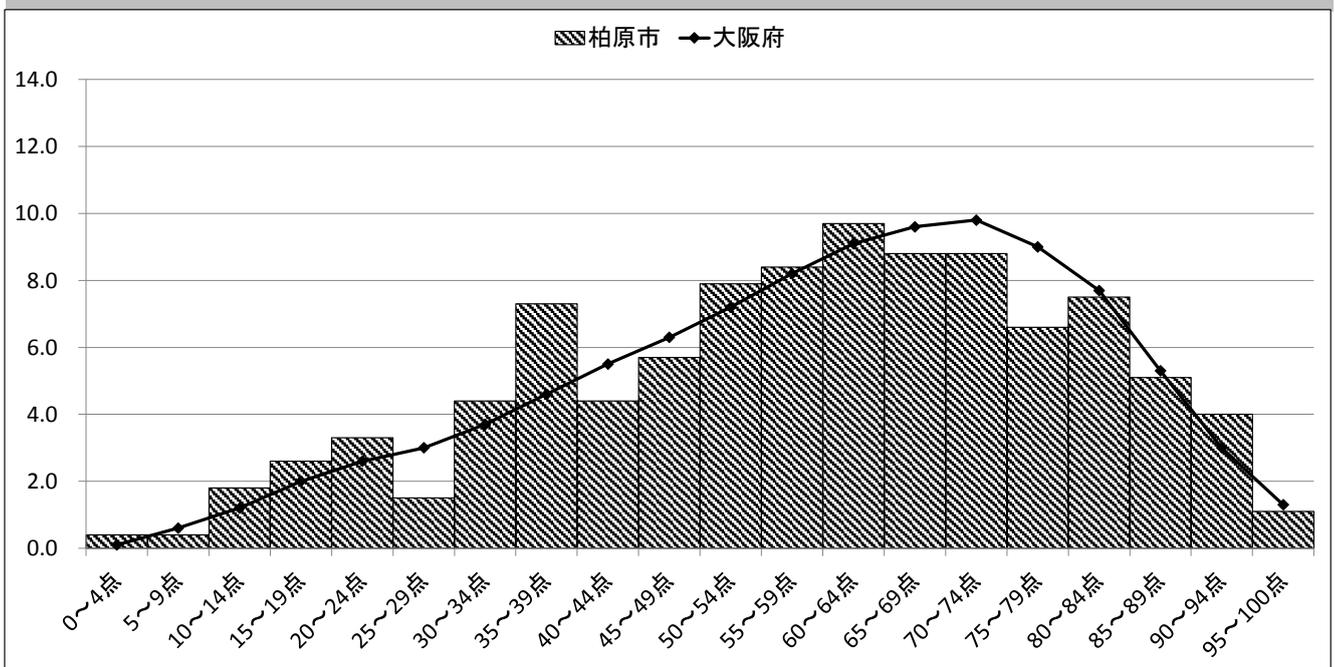


◆特徴的な傾向

- ▼全体の平均点は、1.4点府を下回っている。
- ▼得点率がすべての区分において府を下回っている。特に、「情報の扱い方に関する事項」の領域、「思考力・判断力・表現力」の領域・観点、選択式・記述式の問題での課題が大きい。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、1年次より低下している。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	一	3	①
問題の概要	漢字を書く(アズける)		
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく書いている		
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	51.0	17.7
大阪府	47.1	19.2

問題

次のカタカナを文の内容に合うように漢字に直し、楷書でいねいにかきなさい。
① 銀行にお金をアズける。

正答

預(ける)

- ・府と比較して正答率が高かった問題である。
- ・無解答率も府より低いものの、約2割弱の生徒が解答できていない。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	一	3	③
問題の概要	漢字を書く(コクモツ)		
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく書いている		
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	34.4	21.6
大阪府	39.4	19.0

問題

次のカタカナを文の内容に合うように漢字に直し、楷書でいねいにかきなさい。
③ 小麦や米などのコクモツ。

正答

穀物

- ・府と比較して正答率が低かった問題である。
- ・無解答率も同様に府と比較して高かった問題である。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	五	5	B
問題の概要	本文の内容について交わした会話の一部中の空欄に入る適切な言葉を書く		
出題の趣旨	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる		
領域	我が国の言語文化に関する事項・読むこと	評価	知識・技能 思考・判断・表現 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	49.2	29.6
大阪府	48.7	30.3

問題の文章については、著作権者への配慮から掲載を控えています。

正答

私が描いたように飛ぶことはとてもできまい【二十字】

- ・全問題の中で無解答率が最も高かった(府よりは低い)問題である。
- ・一方で約5割弱の生徒が正答しており、誤答となった生徒は17.2%である。

【会話の一部】

5 次は、本文の内容について、田中さんと山下さんが交わした『会話の一部』です。『会話の一部』中のA、Bに入る適切な言葉を、それぞれ現代の言葉で十五字以上、二十五字以内で書きなさい。

田中さん この話は白鷺(しらぎ)をふすまに描くように注文した亭主(ていしゆ)がそれを受け取った絵描きのやりとりが書かれて
いるんだね。
山下さん そうだね。そして、絵描きが描いた下絵を見て、亭主は満足していないようだね。亭主は下絵を見
て、「あなたの絵の白鷺は飛び上がっているが、A」と言っているね。
田中さん でも、絵描きは、本当の白鷺について、「あの羽の使い方では、B」と言っているよ。
私は、自分の技術の未熟さを指摘された絵描きがそれを認めずに負け惜しみを言ったところがおもしろ
いと思ったよ。
山下さん なるほど。この話の他にも古典にはおもしろい話がたくさんありそうだね。他の作品も読んでみよ
うよ。

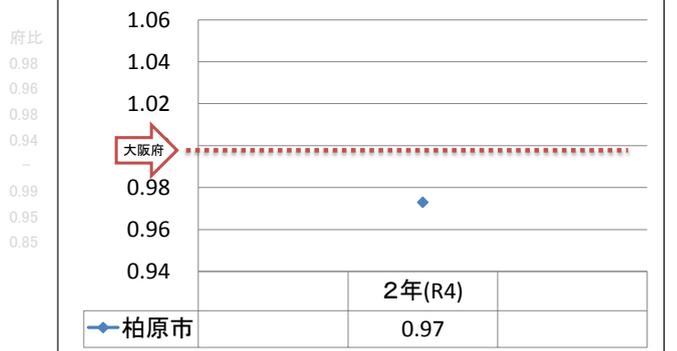
	平均点
柏原市	43.2
大阪府	44.4

※得点率(%)=平均点/設問数

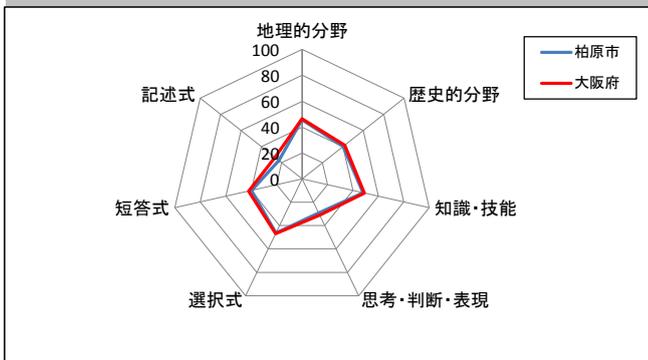
分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	地理的分野	20	45.7	46.5
	歴史的分野	16	40.2	41.9
評価の観点	知識・技能	28	47.9	48.9
	思考・判断・表現	8	29.1	31.0
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	28	46.3	46.9
	短答式	6	39.8	42.1
	記述式	2	22.7	26.7

※令和3年度(1年次)は調査なし。

◆同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

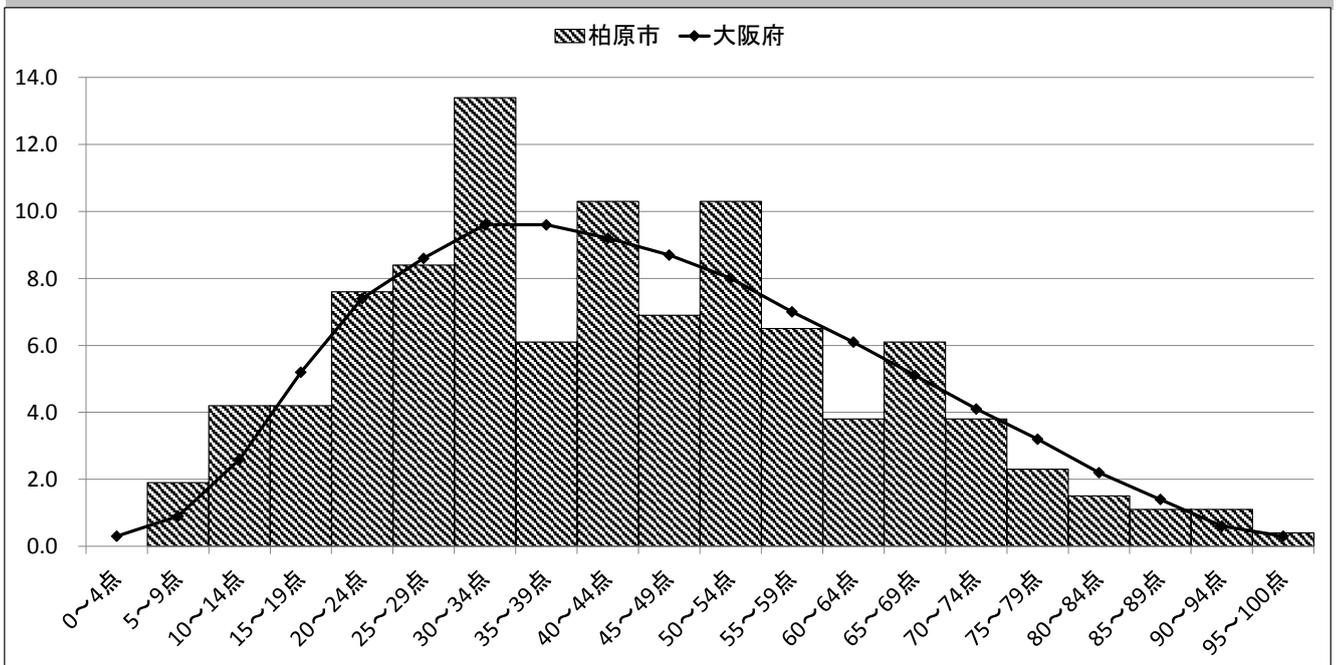


◆特徴的な傾向

- ▼全体の平均点は、1.2点府を下回っている。
- ▼得点率がすべての区分において府を下回っている。特に、「思考・判断・表現」の観点、短答式・記述式の問題での課題が大きい。
- ▼得点別分布では、20点未満の割合が府より大きく、60点以上の割合が府より小さい。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	3	(1)	②(i)
問題の概要	白河の関跡に石碑を建てた松平定信に関する会話文に入る語として適しているものを選ぶ		
出題の趣旨	松平定信について理解している		
領域	歴史的分野	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	51.9	1.5
大阪府	45.2	1.1

(i) 【メモ2】中の下線部②に関して、あみさんとりくさんが話をしています。
【会話文1】中の㊸ [], ㊹ [] から適しているものをそれぞれ1つずつ選びなさい。

【メモ2】

著作権者への配慮から掲載を控えております。

『奥の細道を読む』により作成

【会話文1】

あみさん：白河の関は、奈良時代から平安時代にかけて、人や物資の往来を取りしめるなどの役割を果たしていた施設で、現在の福島県にあったよ。
りくさん：白河の関があったと考えられている場所には関跡の石碑が建てられているんだよね。
あみさん：そうだよ。その石碑は、㊸ [ア 享保の改革 イ 寛政の改革] を行った松平定信が建てたよ。
りくさん：そうなんだね。松平定信は㊹ [ウ 天明 エ 文政] という年号(元号)の時に起こったききんのころに老中となり、幕府の政治改革に携わったよね。

正答例 c イ d ウ

・府と比較して正答率が高かった問題である。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	3	(1)	②(ii)
問題の概要	江戸時代に日本海や日本海にある佐渡島、瀬戸内海を通して大阪まで東北地方などの米や特産物を運ぶのに利用された航路の名前を書く		
出題の趣旨	西廻り航路について理解している		
領域	歴史的分野	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	45.0	12.6
大阪府	61.5	11.1

(ii) 【メモ2】中の下線部②に書かれている佐渡とは、佐渡島のことです。佐渡島に関することについて述べた次の文章中の(e)に入る適切な語を漢字1字で書きなさい。

正答例 西

佐渡島には、日本海から瀬戸内海を経て大阪に至る(e)廻り航路の寄港地として栄えた港があります。(e)廻り航路は江戸時代に開かれた航路の一つで、東北地方などの米や特産物を運ぶ船が利用していました。

・府と比較して正答率が低かった問題である。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	3	(2)	①
問題の概要	大名について述べた文章中に入る適切な語を書く		
出題の趣旨	御三家について理解している		
領域	歴史的分野	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	15.3	46.6
大阪府	11.0	48.6

(2) 2班は、江戸時代の宿場に関することについて調べ、西日本の大名などが利用した、茨木市にある郡山宿本陣を訪れました。【メモ3】は、2班のくみさんが調べたことをもとにつくったものです。あとの問いに答えなさい。

① 【メモ3】中の下線部②について述べた次の文章中の(f)に入る適切な語を書きなさい。

【メモ3】

- 宿場は宿駅とも呼ばれる。
- 主な宿場に設けられた本陣は、江戸時代に②大名らが休憩や宿泊のために利用した施設である。
- 京都と西国とを結ぶ西国街道にあった郡山宿に位置する郡山宿本陣は、江戸時代の建物が残る国の史跡である。
- ②郡山宿本陣の宿泊者台帳(宿帳)には、大名の名前などが記録されている。



郡山宿本陣

江戸時代の大名は、親藩、譜代大名、外様大名に区別されました。また、親藩のうち、尾張徳川家、紀伊徳川家、(f)徳川家は御三家と呼ばれました。

正答例 水戸

・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
・正答率も最も低い。

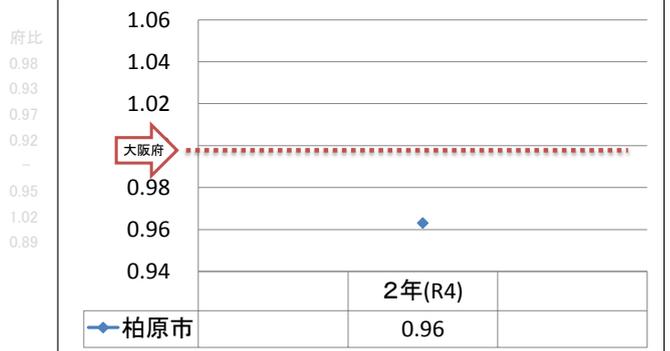
	平均点
柏原市	41.7
大阪府	43.3

※得点率(%)=平均点/設問数

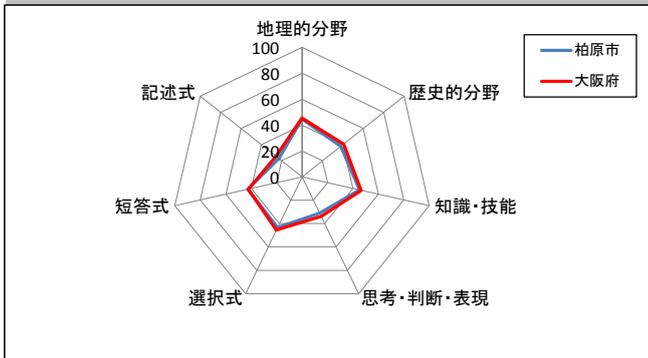
分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	地理的分野	20	44.8	45.5
	歴史的分野	16	37.9	40.7
評価の観点	知識・技能	28	45.2	46.5
	思考・判断・表現	8	31.1	33.8
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	28	43.4	45.5
	短答式	6	42.9	42.2
	記述式	2	22.7	25.6

※令和3年度(1年次)は調査なし。

◆同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)



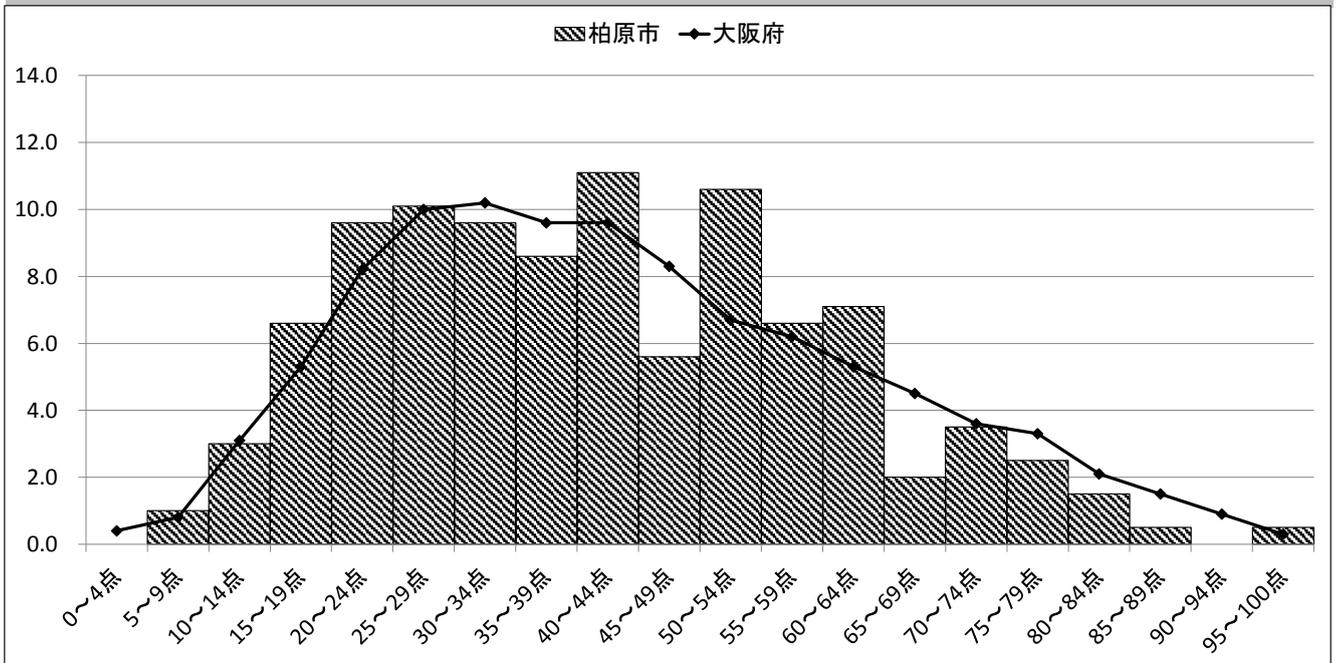
◆領域別等のレーダーチャート



◆特徴的な傾向

- 得点率が「短答式」の問題で府を0.7ポイント上回っている。
 - ▼全体の平均点は、1.6点府を下回っている。
 - ▼得点率がほとんどの区分において府を下回っている。特に、「歴史的分野」の領域、「思考・判断・表現」の観点、選択式・記述式の問題での課題が大きい。
 - ▼得点別分布では、65点以上の割合が府より小さい。
- 印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

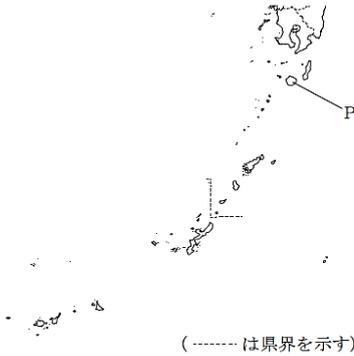
問題番号	1	(4)	②
問題の概要	九州地方において1993年に世界自然遺産に登録された地域のある島の名前を書く		
出題の趣旨	屋久島の名前と位置について理解している		
領域	地理的分野	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	58.6	11.1
大阪府	31.5	22.1

② 九州地方の世界遺産を調べたいぶきさんは、図3中のPの島には1993年に世界遺産(世界自然遺産)に登録された地域があることを知りました。図3中のPの島の名前を書きなさい。

正答例 屋久(島)

図3



・府と比較して正答率が高かった問題である。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	3	(3)	④
問題の概要	化政文化を代表する浮世絵師の1人で、浮世絵による風景画を描いた人物を選ぶ		
出題の趣旨	葛飾北斎について理解している		
領域	歴史的分野	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	47.0	1.5
大阪府	61.5	1.6

④ 【メモ4】中の下線部㊸に関して、化政文化を代表する浮世絵師の1人で、多くの浮世絵による風景画を描いた人物として最も適しているものを、次のア～エから1つ選びなさい。

正答例 エ

- ア 尾形光琳 イ 俵屋宗達 ウ 菱川師宣 エ 葛飾北斎

・府と比較して正答率が低かった問題である。
 ・誤答として最も多かったのが「ウ」であり、24.2%の生徒が選択している。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	4B	(1)	②
問題の概要	地形図を発行している国の機関の名前を書く		
出題の趣旨	地形図を発行している国の機関について理解している		
領域	地理的分野	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	10.6	53.0
大阪府	24.0	54.1

② 図2について、地形図を発行している国の機関の名前を漢字5字で書きなさい。正答例 国土地理院

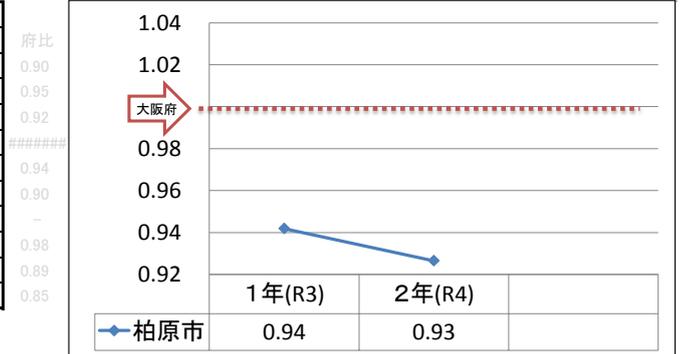
・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
 ・正答率も2番目に低い。

	平均点
柏原市	45.4
大阪府	49.0

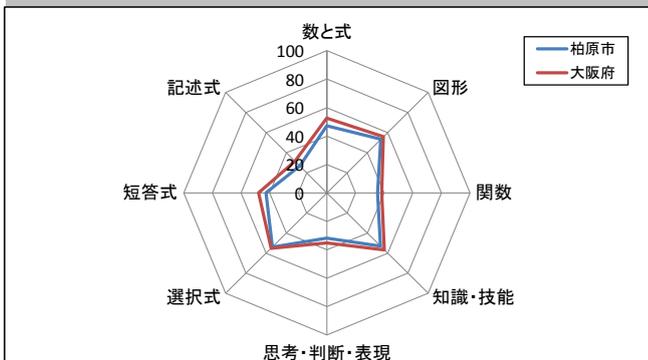
*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	数と式	10	47.3	52.5
	図形	10	53.3	55.9
	関数	10	35.4	38.3
	データの活用	—	—	—
評価の観点	知識・技能	19	53.1	56.7
	思考・判断・表現	11	31.8	35.3
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	11	53.9	55.1
	短答式	16	42.5	47.6
	記述式	3	26.8	31.4

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

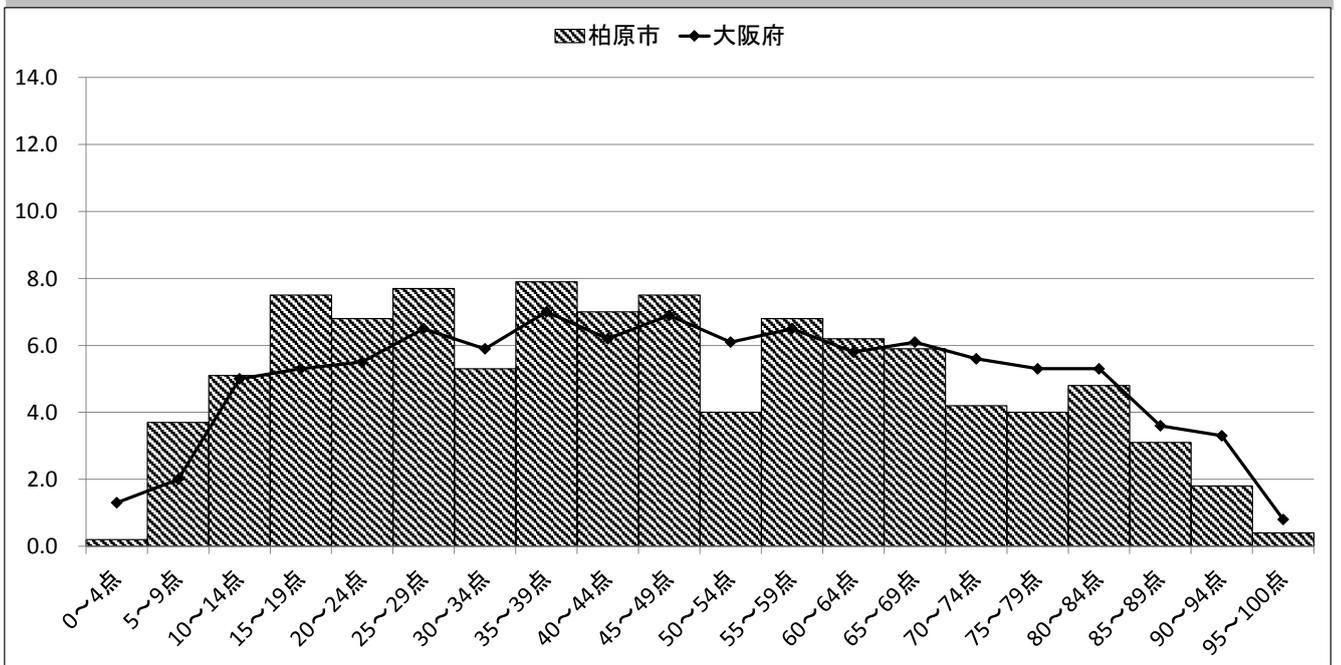


◆特徴的な傾向

- ▼全体の平均点は、3.6点府を下回っている。
- ▼得点率がすべての区分において府を下回っている。特に、「数と式」「関数」の領域、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の観点、短答式・記述式の問題での課題が大きい。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、1年次より低下している。
- ▼得点別分布では、30点未満の割合が府より大きく、70点以上の割合が府より小さい。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



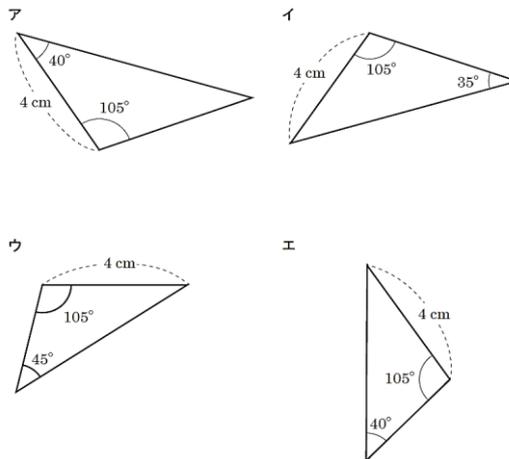
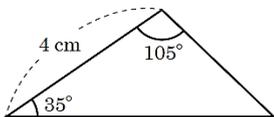
○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	3	(6)	
問題の概要	合同な三角形を選ぶ		
出題の趣旨	三角形の合同条件を理解している		
領域	図形	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	75.3	0.0
大阪府	69.8	0.3

(6) 図6の三角形と合同な三角形を、あとのア～エから1つ選びなさい。

図6



正答例 エ

・府と比較して正答率が高かった問題である。
・誤答として最も多かったのが「イ」であり、13.7%の生徒が選択している。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	6	(2)	
問題の概要	作図の方法から導かれる線分を書く		
出題の趣旨	筋道を立てて考えることができる		
領域	図形	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	40.7	21.6
大阪府	49.8	18.2

⑥ きみさんは、次の問題を考えています。

きみさんは、△AODと△BOCが合同であることをもとにして、次のようにAD = BCであることを証明しました。

問題

図1のような∠XOYがあります。図2は、次の手順①～④に従って、∠XOYの辺OXと辺OY上に点A, B, C, Dをとり、線分ADと線分BCを作図したものです。このとき、AD = BCであることを証明しなさい。

手順

- ① ∠XOYの頂点Oを中心に適当な半径の円をかき、辺OX, OYとの交点をそれぞれ点A, 点Bとする。
- ② 点Aを中心にして、線分OAの長さより小さい半径の円をかき、線分OAとの交点を点Cとする。
- ③ 点Bを中心にして、②の線分ACの長さと同じ半径の円をかき、線分OBとの交点を点Dとする。
- ④ 点Aと点D, 点Bと点Cをそれぞれ直線で結ぶ。

図1

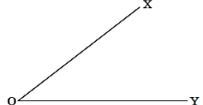
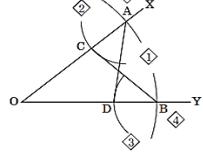


図2



証明

△AODと△BOCにおいて
 手順①より、OA = OB①
 手順②より、a②
 また、OD = b - c③
 OC = d - e④
 ①, ②, ③, ④より、OD = OC⑤
 共通な角だから、∠AOD = ∠BOC⑥
 ①, ⑤, ⑥より、f から
 △AOD = △BOC
 合同な図形では、g から
 AD = BC

正答例

b OB c BD
 d OA e AC

(1)～(4)の問いに答えて証明を完成しなさい。

(1) a に当てはまる式を書きなさい。

(2) b ～ e に当てはまる線分をそれぞれ書きなさい。

・府と比較して正答率が低かった問題である。
・無解答率も同様に府と比較して高い。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	7	(2)	(i)
問題の概要	2直線が平行になる理由を説明する		
出題の趣旨	時間と道のりを表すグラフの特徴を数学的に説明することができる		
領域	関数	評価	思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	24.9	54.4
大阪府	31.3	51.3

問題省略

正答例

直線の傾きは速度を表していることから、家から公園まで常に一定の速度で走るのでグラフ①とグラフ②の傾きが等しい。傾きの等しい直線は平行になるから。

・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
・正答率も府と比較して6.4ポイント低い。

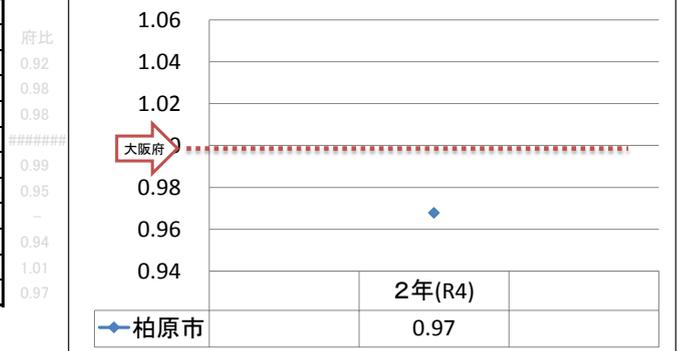
	平均点
柏原市	51.2
大阪府	52.9

※得点率(%)=平均点/設問数

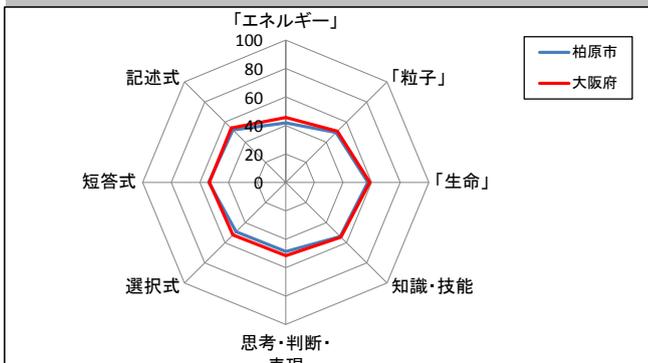
分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	6	41.8	45.6
	「粒子」	13	49.7	50.8
	「生命」	12	57.4	58.7
	「地球」	—	—	—
評価の観点	知識・技能	16	53.9	54.4
	思考・判断・表現	15	48.7	51.5
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	16	49.2	52.4
	短答式	13	53.7	53.4
	記述式	2	52.2	53.9

※令和3年度(1年次)は調査なし。

◆同一生徒集団の経年変化 (対大阪府比)



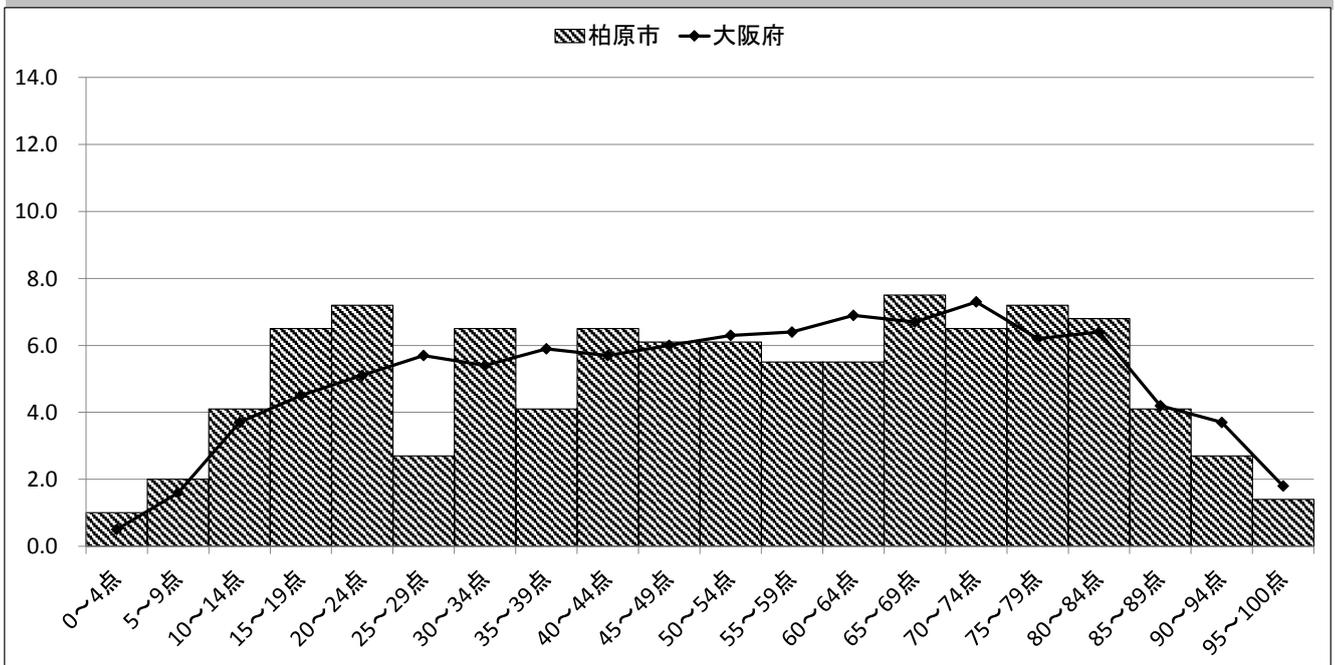
◆領域別等のレーダーチャート



◆特徴的な傾向

- 得点率が「短答式」の問題で0.3ポイント府を上回っている。
 - ▼全体の平均点は、1.7点府を下回っている。
 - ▼得点率がほとんどの区分において府を下回っている。特に、「エネルギー」の領域、「思考・判断・表現」の観点、選択式・記述式の問題での課題が大きい。
 - ▼得点別分布では、20点未満の割合が府より大きい。
- 印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	1	(1)	①
問題の概要	外界からの刺激を受けとる器官の名前を書く		
出題の趣旨	感覚器官について理解している		
領域	生命	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	74.1	8.9
大阪府	64.1	9.7

1 ゆうたさんは、リレーの際には、バトンを受け渡す時間を短くすることが大切だと知りました。バトンを受けとる走者は、図1のように、前を向いて走りながら後ろに手をのばし、バトンが手にふれたらバトンをすばやくにぎります。バトンが手にふれてからバトンをにぎるまでにかかる時間に興味をもったゆうたさんは、刺激に対するヒトの反応と、ヒトが刺激を受けとってから反応するまでにかかる時間について調べることにしました。(1)～(3)の問いに答えなさい。

図1



【まとめ】

刺激に対するヒトの反応には、意識して起こす反応と無意識に起こる反応がある。

<意識して起こす反応の例>

- ・バトンが手にふれたら、バトンをにぎる。
- ・暑いと感じたら、上着をぬぐ。

<無意識に起こる反応の例>

- ・熱いものに手がふれると、熱いと感じる前に思わず手を引っ込める。
- ・暗い場所から明るい場所へ移動すると、ひとみ(瞳孔)が小さくなる。

(1) まず、ゆうたさんは、刺激に対するヒトの反応について次のようにまとめました。
①～③の問いに答えなさい。

正答例 感覚器官

・府と比較して正答率が高かった問題である。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	4	(1)	
問題の概要	2.00gの銅が酸化されてできる酸化銅の質量を書く		
出題の趣旨	化学変化における物質の質量の関係を考え、酸化されてできる酸化銅の質量について考えることができる		
領域	粒子	評価	思考・判断・表現 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	44.0	15.7
大阪府	51.6	12.8

実験文省略

(1) 【会話1】中の ⑤ に入る適切な数値を書きなさい。

正答例 西

・府と比較して正答率が低かった問題である。

【会話1】

さとみさん：酸化銅の質量は加熱する銅の質量に比例するので、銅の量を2.00gにして<実験1>を行うと、酸化銅は ⑤ gできるとわかるね。

たけるさん：そういえば、今回の<実験1>を行って、気になったことがあるんだ。銅の質量が増えるにつれて 方法 3, 4 をくり返す回数が多くなったよね。なぜだろう。

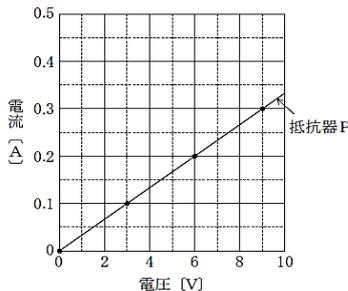
▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	5A	(1)	②
問題の概要	抵抗の大きさが異なる場合の、加わる電圧の大きさと流れる電流の大きさとの関係を表すグラフをかく		
出題の趣旨	抵抗の大きさが大きい抵抗器を用いたときの、流れる電流の大きさと加わる電圧の大きさとの関係を表すグラフをかきことができる		
領域	エネルギー	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	32.1	33.4
大阪府	39.6	34.0

(1) 図2は、ゆうきさんが<実験>の 方法 1 を行ったときの、抵抗器Pに加わる電圧の大きさと抵抗器Pに流れる電流の大きさとの関係をグラフに表したものです。①～③の問いに答えなさい。

図2

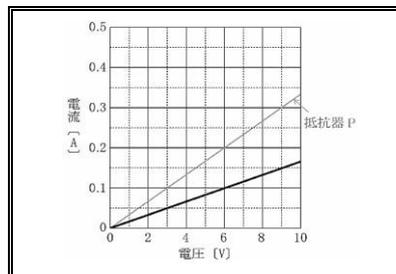


① 抵抗器を流れる電流の大きさは、抵抗器に加わる電圧の大きさに比例します。この関係を表す法則は何と呼ばれていますか、書きなさい。

実験文省略

② 次にゆうきさんは、抵抗器Qに加わる電圧の大きさと抵抗器Qに流れる電流の大きさとの関係もグラフに表し、抵抗器Pのグラフと比較することにしました。解答欄のグラフに、抵抗器Qに加わる電圧の大きさと抵抗器Qに流れる電流の大きさとの関係を表す直線をかきなさい。

正答例



・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
・正答率も最も低い。

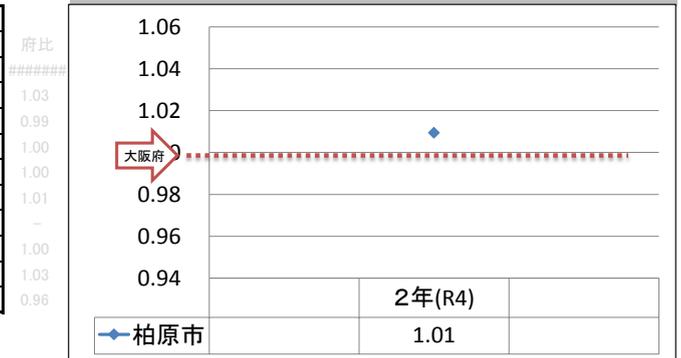
	平均点
柏原市	53.6
大阪府	53.1

※得点率(%)=平均点/設問数

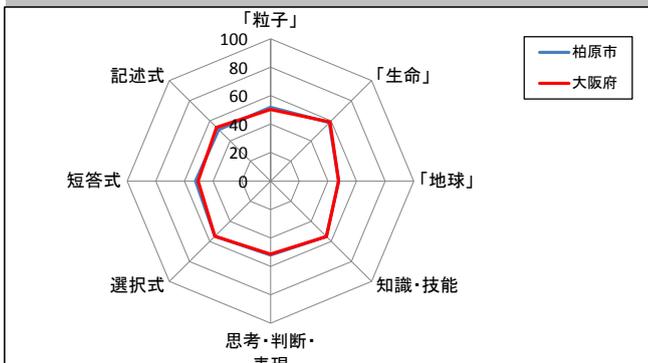
分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)※	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	「エネルギー」	—	—	—
	「粒子」	13	51.9	50.4
	「生命」	12	58.2	58.6
	「地球」	6	47.5	47.6
評価の観点	知識・技能	16	55.2	55.1
	思考・判断・表現	15	52.1	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	16	54.8	54.9
	短答式	13	52.3	50.6
	記述式	2	51.2	53.4

※令和3年度(1年次)は調査なし。

◆同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)



◆領域別等のレーダーチャート

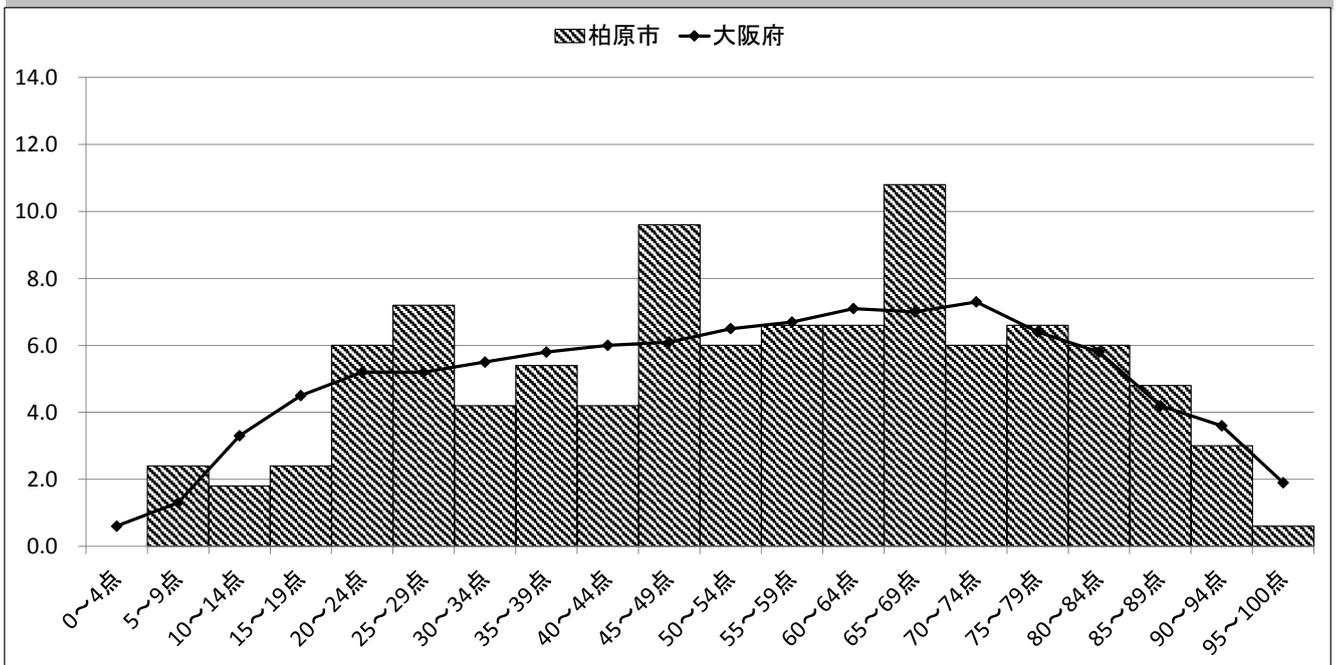


◆特徴的な傾向

○全体の平均点は、0.5点府を上回っている。
 ○多くの区分において得点率が府を上回っている。特に、「粒子」の領域で1.5ポイント、「短答式」の問題で1.7ポイント府を上回っている。
 ○得点別分布では、20点未満の割合が府より小さい。
 ▼「生命」の領域、「記述式」の問題において、得点率が大阪府を下回っている。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	4	(2)	
問題の概要	銅を加熱する実験の「うすく広げる」という操作の意味を酸素という語を用いて15字以内で書く		
出題の趣旨	実験操作の意味について考えることができる		
領域	粒子	評価	思考・判断・表現
		形式	短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	53.9	18.0
大阪府	44.6	24.2

実験文省略

さとみさん：<実験1>の[方法]3にある「うすく広げる」という操作には、銅の粉末を①という意味があったんだね。そのため、今回のステンレス皿を用いて、2.00gの銅で<実験1>を行うと、[方法]3、4をくり返す回数が増えると考えられるね。

正答例 酸素にふれやすくする

・府と比較して正答率が高かった問題である。
・無解答率も同様に府と比較して低い。

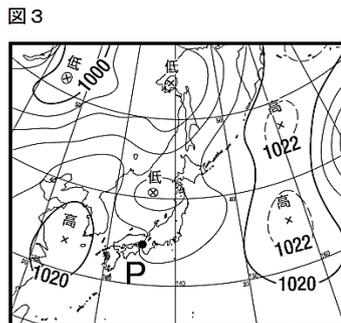
- (1) 【会話1】中の②に入る適切な数値を書きなさい。
(2) 【会話1】中の③に入る適切なことばを、酸素という語を用いて15字以内で書きなさい。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	5B	(1)	①
問題の概要	天気図中のP点の気圧を書く		
出題の趣旨	等圧線について理解している		
領域	地球	評価	知識・技能
		形式	短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	30.5	9.6
大阪府	39.0	10.8

- (1) 【会話】中の下線部②に関して、図3はハイキングに行った日の天気予報で使われた天気図です。①、②の問いに答えなさい。



(気象庁のWebページにより作成)

- ① 図3の天気図から読み取れる、天気図中のP点の気圧は何hPaですか、書きなさい。
② 図3の天気図中のP点での気象観測の結果、天気は晴れ、風向は南西、風力は2でした。このときの天気、風向、風力を、天気図で用いられる記号(天気、風向、風力を示す記号)でかきなさい。

正答例 1016

・府と比較して正答率が低かった問題である。
・全問題中最も正答率が低い。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	2	(2)	③
問題の概要	サツマイモとヒトそれぞれの体内で起こるデンプンの変化について共通することを20字以内で書く		
出題の趣旨	植物と動物において体内で起こるデンプンの変化の共通点について表現することができる		
領域	生命	評価	思考・判断・表現
		形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	45.5	31.1
大阪府	52.8	31.7

- ③ あおいさんは、サツマイモの葉でつくられたデンプンが運ばれるときにサツマイモの体内で起こるデンプンの変化には、ヒトの体内で起こるデンプンの変化と共通点があることに気がつきました。ヒトの体内では、ヒトが食べたいもや米にふくまれているデンプンは消化酵素によって分解され、水に溶けやすい物質であるブドウ糖に変化します。次の文は、サツマイモとヒトそれぞれの体内で起こるデンプンの変化の共通点について書いたものです。文中の②に入る適切なことばを20字以内で書きなさい。

正答例 水に溶けやすい物質に変化する

・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
・正答率も府と比較して低い。

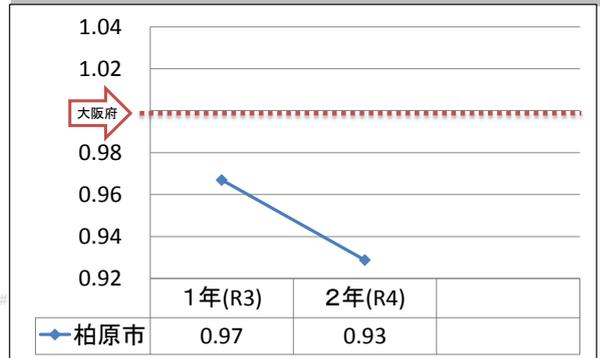
水に溶けにくい物質であるデンプンが②ということが共通している。

	平均点
柏原市	52.1
大阪府	56.1

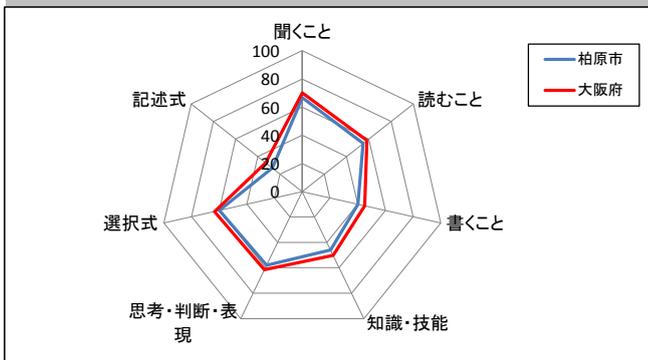
*得点率(%)=平均点/設問数

分類	区分	対象設問数(問)	得点率(%)*	
			柏原市	大阪府
学習指導要領の領域等	聞くこと	12	66.6	70.1
	読むこと	12	54.9	58.2
	話すこと〔やり取り〕	—	—	—
	話すこと〔発表〕	—	—	—
	書くこと	13	40.2	45.1
評価の観点	知識・技能	18	45.9	50.3
	思考・判断・表現	19	58.0	61.6
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	29	60.0	63.4
	短答式	—	—	—
	記述式	8	26.9	32.9

◆同一生徒集団の経年変化（対大阪府比）



◆領域別等のレーダーチャート

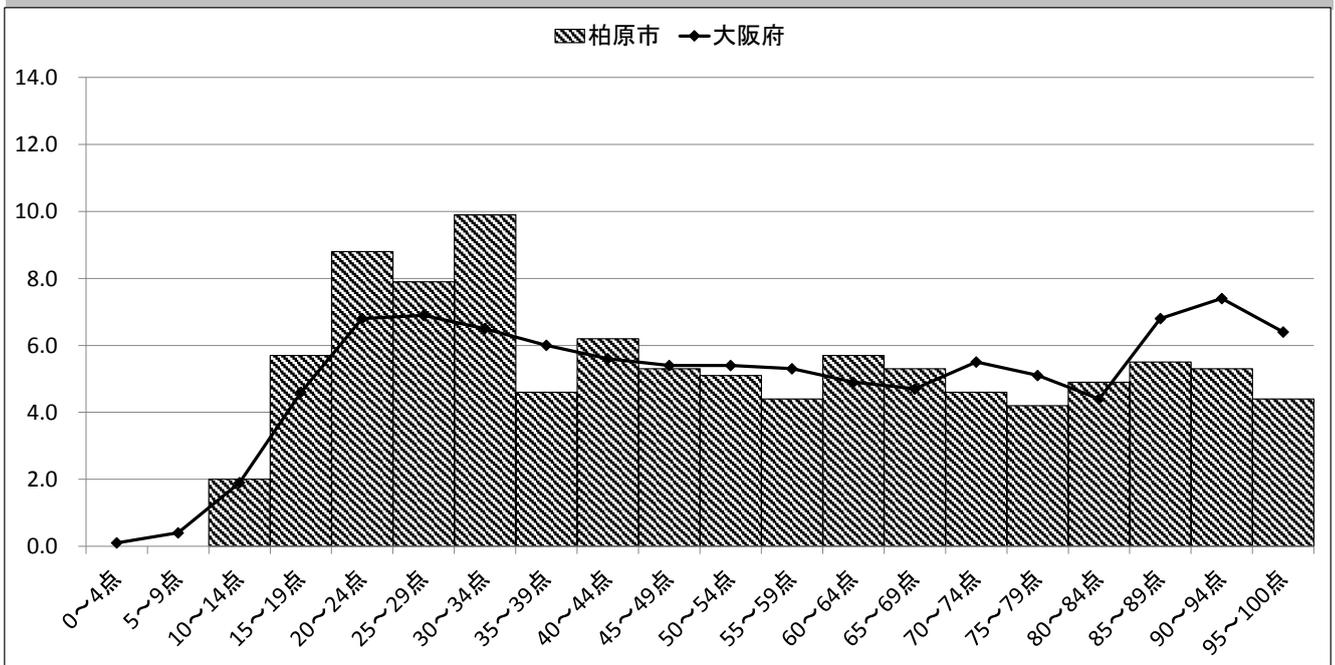


◆特徴的な傾向

- ▼全体の平均点は、4.0点府を下回っている。
- ▼得点率がすべての区分において府を下回っている。特に、「書くこと」の領域、「知識・技能」の観点、記述式の問題での課題が大きい。
- ▼同一生徒集団の経年変化(対大阪府比)では、1年次より低下している。
- ▼得点別分布では、70点以上の割合が府より小さい。

○印: 成果 ▼印: 課題

◆得点別分布の割合



○府と比較して正答率が高かった問題

問題番号	6	(1)	
問題の概要	会話文を読み、会話の内容から、空欄に入れる適切な語句を選ぶ		
出題の趣旨	日常的な話題についてのまとまりのある会話文を読み、内容の概要と要点を適切に把握することができる		
領域	読むこと	評価	思考・判断・表現 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	70.4	0.2
大阪府	69.4	0.3

6 ヒロコ (Hiroko) は、留学生のマイケル (Michael) と話をしています。次の【会話 (1) 【会話文】中の (A) に入れる語句として最も適しているものを、次のア～エから1つ選びなさい。

ア was not イ am not ウ will エ am

【会話文】

Michael: Hi, Hiroko. What are you writing about?

Hiroko: I'm writing about my *future dream *in English. I have to write about it for English homework.

Michael: I (A) help you.

Hiroko: Thank you, but I will write it *by myself.

正答例 ウ

・府と比較して正答率が高かった問題である。
・誤答として最も多かったのが「エ」であり、13.9%の生徒が選択している。

▼府と比較して正答率が低かった問題

問題番号	5	(1)	
問題の概要	メモの内容と合うように、スピーチ原稿の下線部に2語の英語を書く(be動詞+形容詞)		
出題の趣旨	与えられた情報に基づいて、指示された語数で正しい英語を書くことができる		
領域	書くこと	評価	知識・技能 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	33.1	19.2
大阪府	47.2	15.6

5 カズヤは、「ストレッチ (stretching)」について、英語の授業でスピーチをするために、次の【メモ】を作成しました。【メモ】をもとに【スピーチ原稿】中の下線部(1)～(4)に、それぞれ指示された語数の英語を入れて、【スピーチ原稿】を完成させなさい。

【メモ】

「ストレッチ」		
ケガの防止	私は、バレーボール部に所属していて、 ^二 生懸命練習している。バレーボールをするのは楽しい。	ケガなしに練習するためには、ストレッチが大切だと学んだので、私はいつも練習する前にストレッチをしている。
体の健康管理	私はストレッチの方法について学んだ。ストレッチの方法はたくさんある。	ストレッチをすることは私たちに良い健康状態を与えてくれる。ストレッチは日頃の体の健康管理にも役に立つことを学んだ。
正しい方法	正しい方法でストレッチをすることが大事だ。私は、きついストレッチをする必要はないと思う。	私は、ケガなしに ^{一生} 生涯にわたってスポーツを楽しむために、正しい方法でストレッチを続けたい。

【スピーチ原稿】

About Stretching

Hello, everyone. Today, I'll talk about stretching.
I am in the volleyball club. I practice volleyball very hard. Playing volleyball (1)(2語). I learned that stretching is important to practice volleyball *without injury, so I always do stretching before practicing volleyball. I learned about the *ways of stretching. (2)(2語) many ways of stretching. Doing stretching (3)(2語) *good health. I learned that stretching is useful for *usual body care, too.
Doing stretching *in the right way is important. I think that we (4)(3語) do *hard stretching. I want to *continue doing stretching in the right way to enjoy sports *through my life without injury.
Thank you.

正答例 is fun

・府と比較して正答率が低かった問題である。
・無解答率も同様に府と比較して高い。

▼無解答率が最も高かった問題

問題番号	7	(2)	
問題の概要	会話の流れに合うように、会話文の空欄に3語の英語を書く(不定詞 形容詞的用法)		
出題の趣旨	会話文を読み、会話の流れに合うように、指示された語数で正しい英語を書くことができる		
領域	書くこと	評価	知識・技能 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	16.6	36.9
大阪府	22.4	35.5

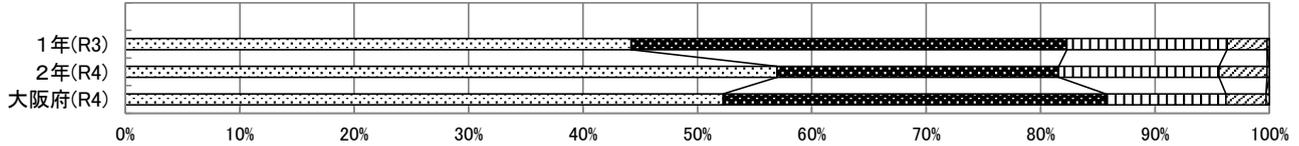
(2) A : What will you do today?
B : Today, I will practice the piano. After that, I will do my homework and cook dinner.
A : Really? You have many (3語) today.

正答例 things to do

・全問題の中で無解答率が最も高かった問題である。
・ふと比較して正答率も低い。

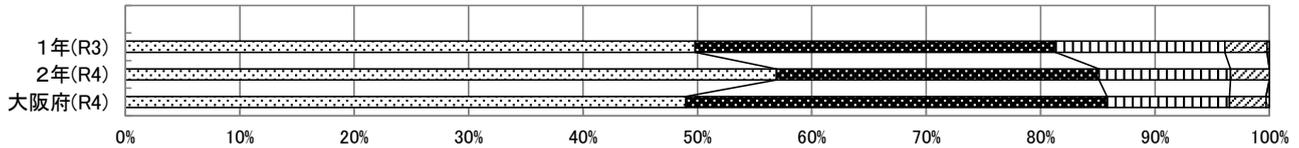
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R3)	44.2	38.1	14.0	3.5	-	-	-	-	0.0	0.2
2年(R4)	56.9	24.6	14.0	4.2	-	-	-	-	0.2	0.0
大阪府(R4)	52.2	33.4	10.5	3.5	-	-	-	-	0.0	0.3

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



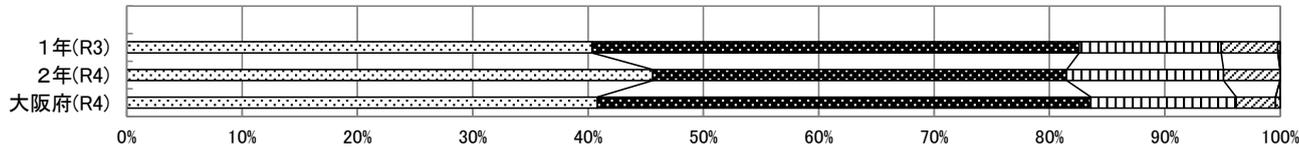
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R3)	49.8	31.5	14.8	3.7	-	-	-	-	0.0	0.2
2年(R4)	56.9	28.2	11.5	3.4	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	49.0	36.8	10.7	3.2	-	-	-	-	0.0	0.3

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



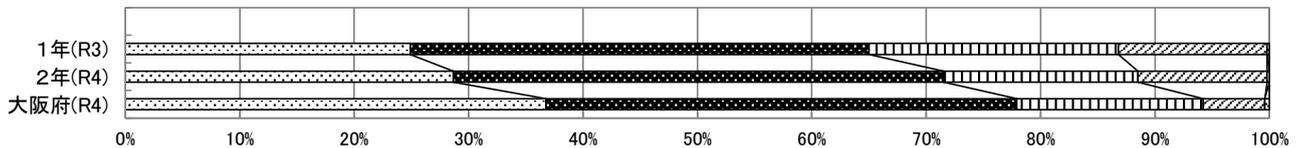
質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R3)	40.3	42.2	12.3	4.9	-	-	-	-	0.0	0.2
2年(R4)	45.6	35.9	13.6	4.9	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	40.8	42.8	12.6	3.4	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
1年(R3)	24.9	40.1	21.8	13.0	-	-	-	-	0.0	0.2
2年(R4)	28.7	42.9	17.0	11.3	-	-	-	-	0.2	0.0
大阪府(R4)	36.8	41.2	16.3	5.4	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答

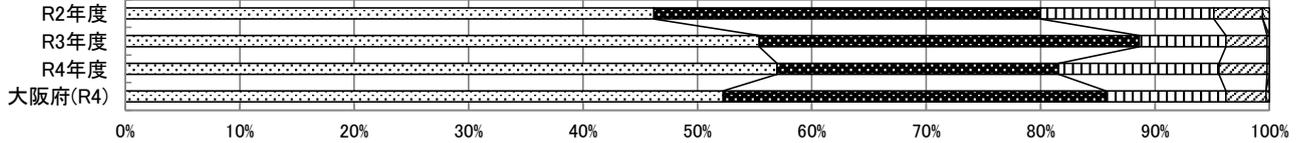


【問1～4】

○1年次よりも肯定的回答(特に強い肯定)の割合が増加している。
 ▼今年度の大阪府との比較においては、府より肯定的回答の割合は小さい。

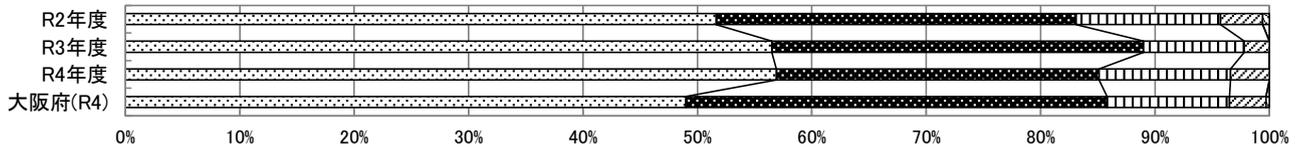
質問番号	質問事項									
問1	授業中、ノートやプリントに自分の考えを書く場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	46.2	33.8	15.1	4.3	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	55.4	33.2	7.6	3.6	-	-	-	-	0.2	0.0
R4年度	56.9	24.6	14.0	4.2	-	-	-	-	0.2	0.0
大阪府(R4)	52.2	33.4	10.5	3.5	-	-	-	-	0.0	0.3

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



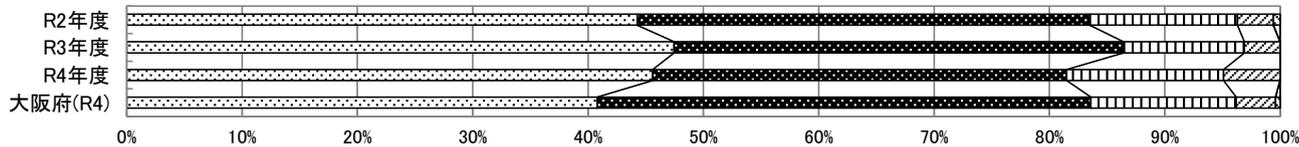
質問番号	質問事項									
問2	授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	51.7	31.5	12.6	3.7	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	56.5	32.5	8.8	2.2	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	56.9	28.2	11.5	3.4	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	49.0	36.8	10.7	3.2	-	-	-	-	0.0	0.3

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



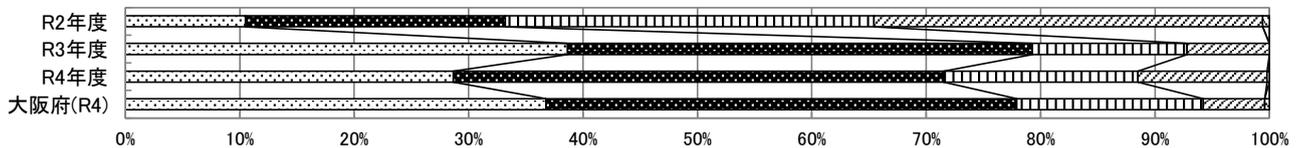
質問番号	質問事項									
問3	授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	44.3	39.2	12.8	3.1	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	47.5	39.0	10.5	3.1	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	45.6	35.9	13.6	4.9	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	40.8	42.8	12.6	3.4	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問4	授業で、図書館の資料やインターネットなどで調べる活動がある。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	10.5	22.7	32.2	34.0	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	38.6	40.6	13.5	7.2	-	-	-	-	0.0	0.0
R4年度	28.7	42.9	17.0	11.3	-	-	-	-	0.2	0.0
大阪府(R4)	36.8	41.2	16.3	5.4	-	-	-	-	0.0	0.4

1.当てはまる
 2.どちらかといえば、当てはまる
 3.どちらかといえば、当てはまらない
 4.当てはまらない
 その他
 無回答

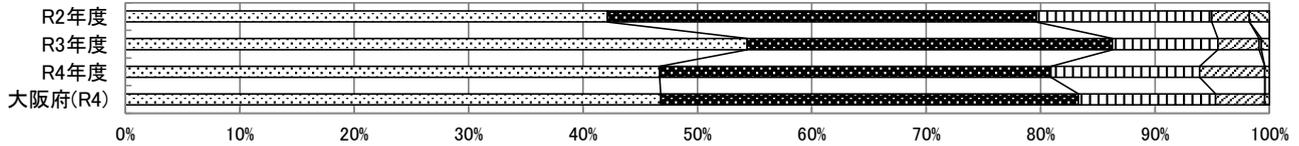


【問1～4】

▼一昨年度(R2)と比較すると肯定的回答の割合は増加あるいは同等だが、昨年度(R3)と比較すると減少している。

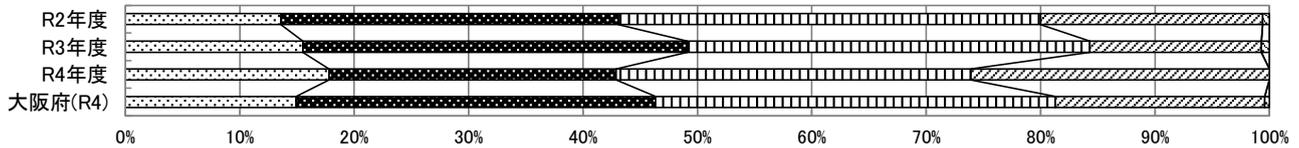
質問番号	質問事項									
問5	授業中、間違っても笑われない。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	42.1	37.5	15.3	3.3	-	-	-	-	0.0	1.7
R3年度	54.3	31.9	9.2	3.6	-	-	-	-	0.2	0.7
R4年度	46.7	34.2	13.0	5.7	-	-	-	-	0.0	0.4
大阪府(R4)	46.8	36.5	12.0	4.3	-	-	-	-	0.0	0.4

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



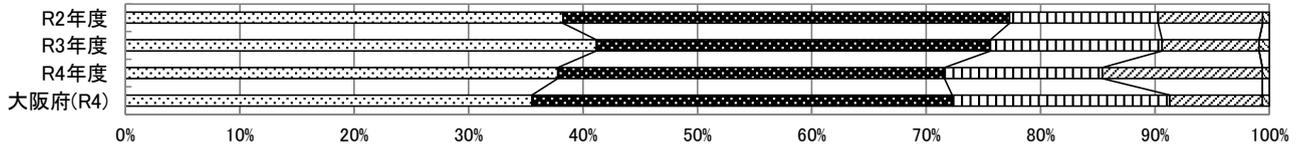
質問番号	質問事項									
問6	自ら課題を見つけて、家で勉強をしている。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	13.6	29.5	36.9	19.4	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	15.5	33.6	35.2	15.0	-	-	-	-	0.0	0.7
R4年度	17.8	25.1	31.0	26.1	-	-	-	-	0.0	0.0
大阪府(R4)	14.9	31.4	34.9	18.3	-	-	-	-	0.0	0.4

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



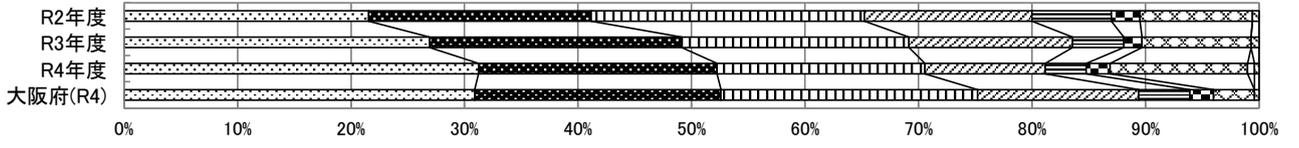
質問番号	質問事項									
問7	テレビや新聞、インターネットなどのニュースを見る。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	38.3	39.0	13.0	9.1	-	-	-	-	0.0	0.6
R3年度	41.2	34.5	15.0	8.5	-	-	-	-	0.0	0.9
R4年度	37.8	33.8	13.8	14.0	-	-	-	-	0.0	0.6
大阪府(R4)	35.5	36.7	19.0	8.1	-	-	-	-	0.0	0.6

1. 当てはまる
 2. どちらかといえば、当てはまる
 3. どちらかといえば、当てはまらない
 4. 当てはまらない
 その他
 無回答



質問番号	質問事項									
問8	普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
R2年度	21.6	19.6	24.1	14.8	7.0	2.5	9.9	-	0.0	0.6
R3年度	26.9	22.2	20.0	14.4	4.5	1.6	9.6	-	0.0	0.7
R4年度	31.2	21.0	18.3	10.6	3.6	2.1	12.1	-	0.6	0.4
大阪府(R4)	30.9	21.7	22.6	14.2	4.5	2.1	3.6	-	0.0	0.4

1. 4時間以上
 2. 3時間以上、4時間より少ない
 3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない
 5. 30分以上、1時間より少ない
 6. 30分より少ない
7. 携帯電話やスマートフォンを持っていない
その他
無回答



【問5～7】

▼一昨年度(R2)と比較すると肯定的回答の割合は増加あるいは同等だが、昨年度(R3)と比較すると減少している。

【問8】

▼使用時間は年々増加している。

本年度の調査結果について(総括)

《各教科の結果より》

① 平均点

		国語	社会	数学	理科	英語
1年	柏原市	60.4		55.3		58.2
	大阪府	58.6		55.0		59.1
2年	柏原市	58.2	<u>42.5</u>	45.4	<u>52.4</u>	52.1
	大阪府	59.6	<u>43.9</u>	49.0	<u>53.0</u>	56.1

※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。

② 同一集団の経年変化(対大阪府比)

		国語	社会	数学	理科	英語
2年	1年(R3)	0.99		0.94		0.97
	2年(R4)	0.98	<u>0.97</u>	0.93	<u>0.99</u>	0.93

※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。

③ 前年度までの学年との比較(対大阪府比)

		国語	社会	数学	理科	英語
1年	R2	1.03		1.04		1.02
	R3	0.99		0.94		0.97
	R4	1.03		1.01		0.98
2年	R2	0.99	<u>0.99</u>	0.93	0.99	0.94
	R3	1.04	<u>1.01</u>	1.03	<u>1.04</u>	0.99
	R4	0.98	<u>0.97</u>	0.93	<u>0.99</u>	0.93

※社会・理科で選択された問題が異なる場合(下線)は、各結果の平均値を示している。

《アンケートの回答結果より》

《1年生》

○授業中の活動や様子(書く場面がある、考えや意見を伝える場面がある、話し合い活動を通じて考えを深める、図書館やインターネット等で調べる、間違っても笑われない)、家庭学習、ニュースを見る等については、前年度の1年生よりも肯定的な回答の割合が増加している。【問1～7】

▼図書館の資料やインターネットなどで調べる活動については、府と比較して肯定的な回答の割合が小さい。【問7】

▼約半数以上の生徒が、平日に3時間以上携帯電話やスマートフォンを使用している(府よりその割合が大きい)。前年度の1年生よりその割合は増加している。【問8】

《2年生》

○授業中の活動や様子(書く場面がある、考えや意見を伝える場面がある、話し合い活動を通じて考えを深める、図書館やインターネット等で調べる、間違っても笑われない)については、肯定的な回答の割合が、1年次より増加している。【問1～5】

▼自ら課題を見つけて家で勉強をする、ニュース等を見るについては、肯定的な回答の割合が1年次より減少しており、特に前者については5割を切っている。【問6、7】

▼約半数以上の生徒が、平日に3時間以上携帯電話やスマートフォンを使用している(府と同等)。この割合は1年次より増加している。【問8】

今後の取組み

《教育委員会としての今後の取組み》

- ・各校の学力向上担当者による学力向上推進委員会において、各校の取組みの成果や課題、進捗状況の報告を行うなど、各校の子どもの実態に応じた主体的な取組みを推進する。
- ・優れた実践から学びを深められるよう、スクールエンパワーメント推進事業の学校公開への積極的な参加を促進する。加えて、Microsoft Teamsや学習eポータルL-Gate等のツールも活用し、オンライン(オンデマンド)にて実践にふれる環境を整える。
- ・府や市の分析を各校と共有し、全国学力・学習状況調査の解説資料を活用しながら、各校の子どもの実態や結果分析を重要な視点とし、校内研究や授業づくりを支援する。
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施し、日常生活におけるスマートフォン等の適切な使い方や情報モラルを含めた情報活用能力の育成を支援する。

《学校における今後の取組み》

- ・チャレンジテストの分析結果について、府、市の状況を参考に、学校の実態や目の前の子どもの様子をふまえながら授業改善や学力向上に関する取組みに活かす。
- ・教員全員が授業力向上をめざし、新しい学習指導要領の意図をふまえた授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実する。
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、授業や家庭学習において、ICTを効果的に活用できる学習指導を充実する。あわせて、情報モラルを含めた情報活用能力の育成を図る。
- ・校務におけるICT活用をさらに充実させ、ゆとりをもって教員が子どもに向き合うことができるようにする。
- ・タブレット端末や個人のスマートフォンの家庭での使用について、基本的な生活習慣の観点も含めて家庭と連携しながら適切に使用できるように指導する。

《家庭にお願いすること》

- ① 基本的な生活習慣の定着
 - ・決まった時間に寝起きすることを心がけ、適切な生活リズムを意図的につくる。
 - ・生活リズムが崩れないよう、発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促す。
 - ・朝ごはんを食べるように促し、学校での学習の質の向上につなげる。
- ② 家庭学習・主体的な学びへの支援
 - ・発達段階に応じて家庭学習の適切な時間を定め、学習習慣を定着させる。
 - ・宿題だけではなく、子どもが主体的に家庭でも学習できるように支援する。
 - ・子どもの興味関心に基づき、主体的に学びに向かうことができるように支援する。
- ③ スマートフォンやPC、ゲーム等の使用についてのルールづくり
 - ・ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用状況を把握し、その使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、適切なルールを決める。
 - ・タブレット端末等のICT機器を活用し、適切なオンライン学習ができるように支援する。